

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第230集

よし だ じょう し
吉 田 城 址
あ く み い せ き
飽 海 遺 跡

2025

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

序

吉田城址と飽海遺跡は、愛知県豊橋市中心部に位置する東三河地域を代表する遺跡です。両遺跡は、三河湾最奥部で豊川河口の左岸丘陵上に位置し、太平洋の海と豊川の水運、そして東京と京都を結ぶ東海道の結接点として古くから多くの人々が行き交い、生活が営まれてきたところです。特に吉田城址は、戦国時代からの要衝の地であり、室町時代後期の牧野古白による築城以来、牧野氏、戸田氏、今川氏、徳川氏などの攻防の地となりました。豊臣秀吉による天下統一後に城主となった池田輝政により現在に残る城郭が築城され、その後江戸時代の各藩主により整備され、発展して明治維新の廃城まで続きました。その後歩兵第18聯隊の設置期を経て、現在の豊橋市中心部の豊橋公園として整備されてきています。

吉田城址と飽海遺跡は、古くから文献史料による研究や数多くの発掘調査も実施され、吉田城址の様子が徐々に明らかになってきました。当センターにおきましても、平成2年の愛知県豊橋警察署、平成5年の愛知県東三河県庁、平成8年の愛知県東三河土木事務所の地点にて3度の発掘調査を実施しており、それぞれ発掘調査成果の報告を行っております。これまでの調査成果については、豊橋市美術博物館による吉田城址の展覧会などを通じて、広く県民のみなさまに知っていただくこととなりました。

本書は、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センターにおいて、令和4年12月に愛知県東三河建設事務所改修工事に際して発電機棟等建設に伴う発掘調査を行った成果をまとめたものであります。調査の結果、遺跡の一部ではありますが、吉田城址の東外堀と城下町の武家屋敷に関連する遺構や遺物などが発見され、また飽海遺跡では中世の集落跡を考える貴重な資料を報告することができました。今後学術的な資料として広く活用されるとともに、広く県民の埋蔵文化財の理解への一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査に対してご理解、ご協力を賜った関係諸機関並びに地元の皆様、発掘調査や資料整理に参加協力していただきました多くの方々に厚くお礼を申し上げます

令和 7 年 3 月

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
理事長 岡本 範重

例 言

1. 本書は、豊橋市今橋町 6 番地地内に所在する吉田城址・飽海遺跡 (県遺跡番号 790393・790394) の発掘調査報告書である。

2. 発掘調査は、東三河建設事務所改修工事 (発電機棟等建設) に伴う事前調査として、愛知県防災安全局防災部防災危機管理課より愛知県県民文化局を通じて委託を受けた公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが調査を実施した。

3. 調査期間は令和 4 年 12 月 5 日～令和 4 年 12 月 22 日で、調査面積は 100 m²である。

4. 調査担当者は、樋上 昇 (主任専門員・現調査課長)・蔭山誠一 (調査研究専門員) である。現地における発掘調査は、株式会社波多野組 (現場代理人：守屋久人) と橋本技術株式会社 (測量技師：橋本岩夫) の業務支援を受けて行なっている。現地の遺構の写真撮影は蔭山が行った。

5. 整理および報告書作成作業は、令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月で、蔭山が担当した。

6. 遺物整理、製図については次の方々のご協力を受けた。

阿部裕恵・一柳純子・梅本陽子・唐木美早・川添奈穂美・鈴木好美・瀧 智美・時田典子・堀田祐美・前田弘子・山田有美子・山本孝枝 (整理補助員)

7. 出土遺物の実測・デジタルトレースについては、株式会社イビソクに、遺跡周辺の調査区位置の補正作業、地形図・絵図などのデジタルトレースは国際文化財株式会社委託し、蔭山が校正した。

8. 本報告書掲載の出土遺物の写真撮影については有限会社写真工房遊 (金子知久) に委託した。

9. 発掘調査および報告書作成に際しては、次の関係機関の指導・協力を受けた。

愛知県建築局公共建築部公共建築課・愛知県東三河建設事務所総務課・愛知県県民文化局文化部文化芸術課文化財室・愛知県埋蔵文化財調査センター・豊橋市教育委員会・豊橋市美術館・豊橋市文化財センター・三河土建株式会社 (五十音順、敬称略)

10. 発掘調査および報告書作成にあたり、次の方々から教示・協力を頂いた。

岩原 剛・菊池直哉・中川 永 (五十音順、敬称略)

11. 本書の編集・執筆は蔭山が行った。

12. 調査区の座標は、国土交通省告示に定められた平面直角座標第 VII 系に準拠し、新測地系 (世界測地系) で表記している。

13. 調査記録および写真記録は愛知県埋蔵文化財センターで保管している。

〒 498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802 の 24 TEL：0567-67-4163

14. 出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。

〒 498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802 の 24 TEL：0567-67-4164

目 次

第1章 調査の概要	2
第1節 調査に至る経緯	2
第2節 調査の方法	2
第3節 地理・歴史的環境	5
第2章 遺構	10
第1節 基本層序	10
第2節 平安時代末～鎌倉時代	10
第3節 江戸時代後期	13
第3章 出土遺物	17
第1節 土器・陶磁器	17
第2節 ガラス製品	22
第3節 金属製品	22
第4節 石製品	22
第4章 総括	27
第1節 外堀地点の遺構変遷	27
第2節 吉田城址における外堀と22区002SDの関係	28
写真図版	31

図・表 目 次

図1 吉田城址・飽海遺跡の位置	2	図13 22区・96区遺構変遷図(1:400)	27
図2 吉田城址・飽海遺跡調査区位置図 (1:10,000)	3	図14 吉田藩土屋敷図(豊橋市美術館所蔵)	29
図3 周辺の遺跡(1:50,000)	7・8	図15 吉田城址・飽海遺跡の立地 (1:100,000)	30
図4 遺構平面図(1:100)	11		
図5 基本層序1(1:100)	12	表1 吉田城址・飽海遺跡発掘調査一覧	4
図6 基本層序2(1:100)	13	表2 遺構一覧表	16
図7 個別遺構図1(1:50)	14	表3 出土遺物一覧表1	23
図8 個別遺構図2(1:50)	15	表4 出土遺物一覧表2	24
図9 出土土器・陶磁器1(1:4)	18	表5 出土遺物一覧表3	25
図10 出土土器・陶磁器2(1:4)	20	表6 出土遺物一覧表4	26
図11 出土土器・陶磁器3(1:4)	21		
図12 出土ガラス製品・金属製品・石製品(ガラス製品と金属製品は1:2、石製品は1:4)	21		

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

吉田城址（図1、県遺跡番号790393）は、本丸のある今橋町を中心に東は飽海町から旭町、南は曲尺手町から呉服町、西は関屋町に広がる広範囲に及ぶ遺跡で、飽海遺跡（図1、県遺跡番号790394）は今橋町から東は飽海町にかけて吉田城址と重複して広がっている。

そのため吉田城址は豊橋市役所の庁舎や地下駐車場の建設、豊橋市立豊城中学校の校舎建築、豊橋警察署、東三河県庁、東三河土木事務所などの各種公共施設の建設に際して、愛知県埋蔵文化財センターや豊橋市教育委員会により比較的大きな面積の発掘調査が実施されてきた。また都市公園「豊橋公園」内には様々な用途の小規模施設があり、トイレの新設・建て替えや防災用貯水槽、防災用アンテナの設置などの小規模な発掘調査は、豊橋市教育委員会により行われてきた（図2・表1）。

今回の調査は、東三河建設事務所改修工事に際して、事務所の北側駐車場に発電機棟等建設に伴うものである。この地点は吉田城址と飽海遺跡が広がる範囲内にあり、遺跡の遺構が依存することが想定されたため、令和4年8月8日に愛知県埋蔵文化財調査センターによる試掘調査が行われた。その結果、建設工事範囲全体に中世から近世にかけての遺構と遺物が確認さ

れたため、事前調査として愛知県防災安全局防災部防災危機管理課より、愛知県県民文化局文化財部文化芸術課を通じて委託を受けた公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが調査を実施した。吉田城址の発掘調査としては第62次調査となる（表1・図2）。

現地の発掘調査期間は、令和4年12月5日～令和4年12月22日で、調査面積は100㎡で、北側部分を22A区、南側部分を22B区、中央部分を22C区として調査した。

第2節 調査の方法

今回の調査にあたっては、愛知県防災安全局防災部防災危機管理課と愛知県建築局公共建築部公共建築課、愛知県東三河建設事務所総務課、愛知県県民文化局文化財部文化芸術課文化財室、愛知県埋蔵文化財調査センター、三河土建株式会社と事前に協議を行い、調査工程と調査方法の確認を行なった。また、その後豊橋市文化財センターも加えて、現地立ち合いのもと調査区の現地確認と調査区を設定した。

現地の調査は、バック・ホウにより地層を確認しながら、現在の表土と盛土・整地層を除去し、遺構面検出面より人力により遺構検出を行った。遺構検出後は検出状況の写真撮影、遺構の

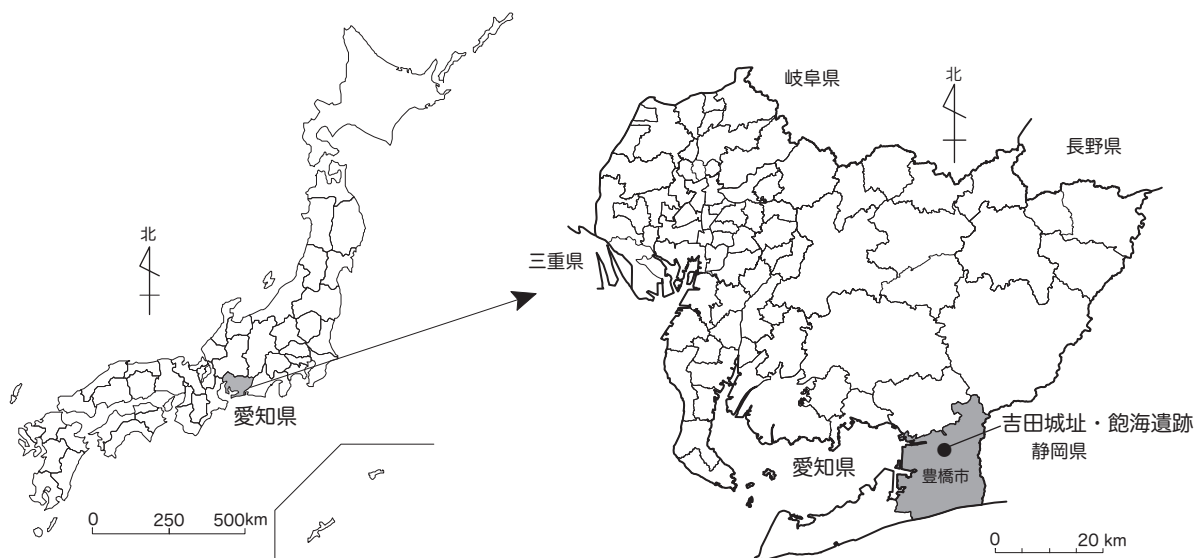


図1 吉田城址・飽海遺跡の位置



図2 吉田城址・飽海遺跡遺跡調査区位置図 (1:10,000)

簡易測量、遺構掘削と作業を進め、必要に応じて遺構断面の地層確認・観察、その写真撮影、遺物の出土状況の観察、写真撮影、これらに伴う測量を行い、遺構掘削が大略完了後清掃を行い、スカイマスターを利用した全景写真撮影を行った。その前後には個別の遺構の写真撮影も行っている。調査区全景の写真撮影後は調査区壁面などの補足調査を行い、外堀にあたる深い部分については、随時埋め戻しと転圧を行って整地をして、当初の予定通りに調査を完了した。また、調査期間の後半の12月13日には、事業の計画にある建物の建築図面と事前のボーリング調査の結果をふまえて、愛知県防災安全局防災部防災危機管理課と愛知県建築局公共建築部公共建築課、愛知県東三河建設事務所総務課、愛知県県民文化局文化部文化芸術課文化財室、愛知県埋蔵文化財調査センター、豊橋市文化財センター、三河土建株式会社と22A区にて確認さ

れた外堀の遺構と掘削深度について、現地立ち合いのもと協議を行い、調査の確認を行なった。

調査時の整理作業は、遺構図は発掘調査時において測量を行った後に順次製図・校正作業を行い、DXF形式で遺構平面図・遺構断面図・基本土層図などを作成した。出土遺物については、遺物の洗浄と乾燥までの一次整理を各発掘調査現場の事務所にて行った。

調査報告書の整理作業は、遺物の分類、接合と復元作業とその後の実測作業、写真撮影、遺物の登録作業は、愛知県埋蔵文化財調査センターにて、令和6年度の4月から令和7年3月に実施した。

出土遺物の実測・デジタルトレースは株式会社イビソクに、遺跡周辺の調査区位置の補正作業、調査遺構図デジタルトレース合成、地形図・絵図などのデジタルトレースは国際文化財株式会社に、出土遺物の写真撮影は有限会社写真工

表1 吉田城址・飽海遺跡発掘調査一覧

次数	調査箇所	調査期間	報告書
1	今橋町3-1	美術博物館建設	1977.8.18～9.11 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第122集 吉田城(XIII)
2	今橋町1	市役所新庁舎建設(現西館)	1977.9.11～10.19 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第121集 吉田城址(XII)
3	今橋町3-1	美術博物館建設	1978.5.22～8.31 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第122集 吉田城(XIII)
4	今橋町3-1	三の丸会館建設	1984.11.10～1985.1.20 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第126集 吉田城址(XIV)
5	今橋町	公園整備(本丸試掘調査)	1989.1.9～2.3 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第21集 吉田城址(I)
6	八町通	豊橋警察署建て替え(県埋文)	1990.10.1～11.30 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第26集 吉田城遺跡
7	今橋町3-1	豊城中学校建設	1991.1.8～3.31 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第21集 吉田城址(I)
8	八町通	東三河事務所建て替え(県埋)	1993.1.5～7.31 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第59集 吉田城遺跡II
9	今橋町1	市役所新庁舎建設	1993.4.12～7.31 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第21集 吉田城址(I)
10	今橋町1	地下駐車場建設	1993.10.18～1994.1.31 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第21集 吉田城址(I)
11	今橋町18	土地改良会館改築	1994.9.1～9.13 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第24集 吉田城址(II)
12	今橋町3-1	東三河代替無線統制室建設	1995 愛知県名古屋 豊橋市 代替無線統制室建設にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書 名古屋城三の丸遺跡 吉田城遺跡
13	今橋町6	豊橋土木事務所新庁舎建設	1996.5.28～7.31 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第78集 吉田城遺跡III
14	八町通五丁目2 9	八町集会所建設	1996.8.21～8.29 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第63集 吉田城址(V)
15	八町通五丁目7	事務所建設	1996.9.2～9.6 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第63集 吉田城址(V)
16	今橋町1	トイレ建て替え(豊橋公園入)	1998.10.21～11.5 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第50集 吉田城址(III)
17	今橋町3-1	トイレ建て替え(野球場)	1998.11.4～11.24 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第50集 吉田城址(III)
18	今橋町4	トイレ新設(陸上競技場)	2000.5.15～5.26 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第55集 吉田城址(IV)
19	今橋町4	陸上競技場正面スタンド記録室	2001.8.20～ 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第63集 吉田城址(V)
20	今橋町3	豊橋公園排水工事	2004.1.23～3.29 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第85集 吉田城址(VI)
21	八町通四丁目1 9	丸美産業(マンション建設)	2004.9.22～10.29 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第86集 吉田城址(VII)
22	八町通四丁目91	松の木	2005.5.9～5.16 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第97集 市内遺跡発掘調査一平成17年度一
23	今橋町3	豊橋公園防火施設	2005.7.25～8.31 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第87集 吉田城址(VIII)
24	八町通四丁目5 2番 1	中日新聞新社屋建設	2005.11.1～12.8 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第91集 吉田城址(IX)
25	八町通三丁目2-1	集合住宅建設	2006.7.10～8.24 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第94集 吉田城址(X)
26	八町通五丁目1 1 3		2006.10.16～10.31 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第106集 市内遺跡発掘調査一平成18年度一
27	関屋町1 4 5-4		2006.12.7 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第106集 市内遺跡発掘調査一平成18年度一
	関屋町1 4 5-3		2007.1.19～1.24 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第106集 市内遺跡発掘調査一平成18年度一
	関屋町1 4 5-2		2007.1.24～1.26 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第106集 市内遺跡発掘調査一平成18年度一
	関屋町1 4 5-1		2007.3.14～3.15 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第106集 市内遺跡発掘調査一平成18年度一
	関屋町1 6 7-9		2006.8.21 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第106集 市内遺跡発掘調査一平成18年度一
	関屋町1 6 7-6		2006.8.22 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第106集 市内遺跡発掘調査一平成18年度一
	関屋町1 6 7-1 0		2006.8.22～8.23 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第106集 市内遺跡発掘調査一平成18年度一
	関屋町1 6 7-8		2007.1.15 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第106集 市内遺跡発掘調査一平成18年度一
28	八町通三丁目6-4・6-6		2006.12.15～12.21 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第106集 市内遺跡発掘調査一平成18年度一
29	八町通四丁目7		2007.5.14～5.22 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第109集 市内遺跡発掘調査一平成19年度一
30	八町通四丁目9 7		2007.6.4～6.5 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第109集 市内遺跡発掘調査一平成19年度一
31	今橋町4	市民プール	2007.8.20～8.28,2008.1.24～1.31 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第123集 市内埋蔵文化財発掘調査 平成17～20年度
32	八町通三丁目3 2		2007.9.7 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第109集 市内遺跡発掘調査一平成19年度一
33	鍛冶町1 8	鍛冶町公園一防火水槽	2007.9.10～9.20 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第123集 市内埋蔵文化財発掘調査 平成17～20年度
34	八町通二丁目3 2		2008.8.18～9.1 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第105集 吉田城址(XI)
35	今橋町4	豊橋公園	2008.11.10～11.13 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第123集 市内埋蔵文化財発掘調査 平成17～20年度
36	八町通三丁目1 0 ほか		2009.5.21～6.1 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第119集 市内遺跡発掘調査一平成21年度一
37	八町通四丁目1 0 3-2	八町分団倉庫	2009.10.05～10.15 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第134集 市内埋蔵文化財発掘調査II
38	今橋町1 6	豊城地区市民館	2009.10.19～10.22 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第134集 市内埋蔵文化財発掘調査II
39	八町通三丁目1 6		2011.4.4～4.20 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第129集 市内遺跡発掘調査一平成23年度一
40	八町通四丁目9-1		2011.6.23～7.2 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第129集 市内遺跡発掘調査一平成23年度一
41	八町通四丁目4 5・4 6		2011.07.04～7.30 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第129集 市内遺跡発掘調査一平成23年度一
42	今橋町4		2012.10.1～10.19 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第139集 市内埋蔵文化財発掘調査III
43	今橋町3-1		2013.7.22～12.3 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第145集 吉田城址(XV)
44	八町通3丁目124、125		2013.9.9～10.4 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第138集 市内遺跡発掘調査一平成25年度一
45	今橋町	豊橋公園	2013.11.5～11.16 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第139集 市内埋蔵文化財発掘調査III
46	今橋町3-1		2015.2.3～3.15 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第145集 吉田城址(XV)
47	関屋町2 0 4-3		2015.5.22～5.23 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第148集 市内遺跡発掘調査一平成27年度一
48	今橋町3-1		2016.6.6～ 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第156集 市内遺跡発掘調査一平成26～28年度一
49	今橋町4		2017.1.5～3末 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第153集 吉田城址(XVI)
50	八町通三丁目		2017.2.9～2.18 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第149集 市内遺跡発掘調査一平成28年度一
51	確認調査① 豊橋公園(鉄櫓下堀底・旧体育館跡)		2018.1.9～3.9 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第152集 市内遺跡発掘調査一平成29年度一
52	確認調査② 豊橋公園(駐車場・金柑丸)		2018.6.25～9.28 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第155集 市内遺跡発掘調査一平成30年度一
53	確認調査③ 豊橋公園(二の丸御殿)		2018.12.6～12.28 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第155集 市内遺跡発掘調査一平成30年度一
54	確認調査④ 豊橋公園(鉄櫓・千貫櫓・辰巳櫓下堀底・二の丸御殿)		2019.2.12～3.29 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第155集 市内遺跡発掘調査一平成30年度一
55	八町通五丁目1 1 7-6		2019.5.7～6.7 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第154集 吉田城址(XVII)
56	確認調査⑥ 豊橋公園(裏御門清掃・千貫櫓・鉄櫓南)		2019.11.29～ 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第157集 市内遺跡発掘調査一令和元年度一
57	確認調査⑦ 豊橋公園(千貫櫓・南多聞東堀底)		2021.1.18～ 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第158集 市内遺跡発掘調査一令和2年度一
58	豊橋公園(石垣解体修復@裏御門・本丸南)		2021.5.17～ 豊橋市埋蔵文化財調査報告書第163集 市内遺跡発掘調査一令和3年度一
59	関屋町99-4		2022.4.20～5.27
60	豊橋公園(石垣解体修復・千貫櫓)		2022.5.30～2023.3.16
61	美術博物館(エレベーター設置)		2022.11.16～11.18
62	東東三河建設事務所改修		2022.12.5～12.22 本報告、愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第230集 吉田城址・飽海遺跡
63	豊橋公園(石垣解体修復@南多門・武家屋敷地土塁)		2023.6.12～11.9
64	多目的屋内施設整備		2024.4.1～

房遊に委託して実施した。

第3節 地理・歴史的環境

吉田城址・飽海遺跡は、赤石山脈の末端にあたり、静岡県との境をなす弓張山脈（石巻山地）が形成した下位段丘面（豊橋段丘）に立地する縄文時代から江戸時代にかけての複合遺跡である。吉田城址の本丸地点では、遺跡の北を流れる豊川の形成した沖積地と比高差が10m前後に及び、また飽海遺跡の北には、豊川に合流する朝倉川がほぼ東西に流れており、朝倉川が形成した沖積地面を望む段丘上に立地する（図15）。

吉田城址・飽海遺跡の周辺の遺跡について、大きく豊川右岸の中位段丘面の遺跡、豊川右岸沖積地の遺跡、豊川左岸沖積地の遺跡、豊川左岸低位段丘面から中位段丘面の遺跡の順に述べる。

豊川右岸の中位段丘面の遺跡（図3 3～41）では縄文時代の大堀遺跡（8）・樫王貝塚（21）・菟足神社貝塚（25）・平井遺跡（31）・平井稲荷山貝塚（32）があり、貝層を伴う遺跡がみられる。弥生時代の遺跡は熊野神社遺跡（5）・下長山遺跡（6）・弥生町遺跡（7）・郷中遺跡（12）・若宮遺跡（16）・北浦貝塚（17）・坂地遺跡（18）・樫王貝塚（21）・欠山遺跡（22）・菟足神社貝塚（25）・倉屋敷遺跡（27）・平井遺跡（31）・平井稲荷山貝塚（32）・北村遺跡（34）・中村遺跡（35）・日色野遺跡（36）・塩見遺跡（40）・伊奈遺跡（41）と豊川右岸の沖積地を望む段丘上に多くの遺跡が分布する。古墳時代には魚見古墳（11）・郷中遺跡（12）・若宮遺跡（16）・北浦貝塚（17）・篠束古墳（19）・樫王貝塚（21）・欠山遺跡（22）・糠塚古墳（23）・五社稲荷山古墳（24）・菟足神社貝塚（25）・倉屋敷遺跡（27）・観音山古墳（28）・平井遺跡（31）・北村遺跡（34）・中村遺跡（35）がみられ、小規模な古墳も分布する。続く古代の遺跡では、郷中遺跡（12）・西宮遺跡（13）・医王寺廃寺跡（15）・若宮遺跡（16）・北浦貝塚（17）・坂地遺跡（18）・樫王貝塚（21）・欠山遺跡（22）・菟足神社貝塚（25）・倉屋敷遺跡（27）・平井遺跡（31）・北村遺跡（34）・中村遺跡（35）・日色野遺跡（36）・塩見遺跡（40）

がみられ、地域の中核となる古代寺院もみられる。中世には牛久保城跡（3）・篠束城跡（9）・下長山堺遺跡（10）・郷中遺跡（12）・西宮遺跡（13）・傾城塚（14）・医王寺廃寺跡（15）・北浦貝塚（17）・坂地遺跡（18）・糠塚砦跡（20）・樫王貝塚（21）・欠山遺跡（22）・倉屋敷代官所（26）・倉屋敷遺跡（27）・日色野1号塚（30）・平井遺跡（31）・日色野2号塚（33）・北村遺跡（34）・中村遺跡（35）・日色野遺跡（36）・日色野3号塚（37）・日色野4号塚（38）・松見屋敷（39）・塩見遺跡（40）があり、中世の塚や城跡がみられる。近世の遺跡では牛久保代官所（4）・倉屋敷代官所（26）・日色野遺跡（36）・塩見遺跡（40）がみられる。

豊川右岸の沖積地の遺跡（図3 46～93）では、縄文時代の大ノ前遺跡（71）・大蚊里貝塚（73）・五貫森貝塚（74）・弥生時代の行明遺跡（50）・末広遺跡（51）・松ノ木田遺跡（54）・塩田遺跡（63）・大塚北遺跡（75）・大塚遺跡（76）・吉添遺跡（77・78）・篠束遺跡（79）・境田遺跡（80）・瓜郷遺跡（89）・緑遺跡（92）があり、弥生時代中期前半の瓜郷遺跡では、竪穴住居や土坑などがみつかっており、弥生時代における最も海よりの沖積地に立地する遺跡となっている。古墳時代では、郷西遺跡（55）・下河原遺跡（58）・ごんぞうぼう古墳（60）・為河原郷遺跡（67）・大ノ前遺跡（71）・大塚北遺跡（75）・大塚遺跡（76）・吉添遺跡（77）・南田遺跡（88）があり、古墳も少数みられる。古代の遺跡では、下河原遺跡（58）・為河原郷遺跡（67）・高山遺跡（68）・島遺跡（70）・大蚊里貝塚（73）・五貫森貝塚（74）・吉添遺跡（77）・改正遺跡（84）・下五井館（85）・天王遺跡（86）・南田遺跡（88）がみられる。中世には、行明遺跡（50）・行明城跡（52）・郷西遺跡（55）・上ノ畑遺跡（56）・宮井戸遺跡（57）・下河原遺跡（58）・仲田遺跡（59）・袋小路遺跡（61）・九蔵遺跡（62）・塩田遺跡（63）・塩田1号塚（64）・善蔵遺跡（65）・北川原遺跡（66）・為河原郷遺跡（67）・高山遺跡（68）・橋元遺跡（69）・島遺跡（70）・大ノ前遺跡（71）・大塚北遺跡（75）・大塚遺跡（76）・吉添遺跡（77）・捨田遺跡（81）・高道遺跡（82）・一新替遺跡（83）・改正遺跡（84）・下五井館（85）・天王遺跡（86）

兵庫遺跡 (87)・南田遺跡 (88)・宗正遺跡 (90)・下地館址 (91)・外畑遺跡 (93) があり、続く江戸時代には、大村霞堤 (53)・郷西遺跡 (55)・上ノ畑遺跡 (56)・宮井戸遺跡 (57)・下河原遺跡 (58)・袋小路遺跡 (61)・九蔵遺跡 (62)・塩田遺跡 (63)・塩田 1 号塚 (64)・善蔵遺跡 (65)・北川原遺跡 (66)・為河原郷遺跡 (67)・高山遺跡 (68)・橋元遺跡 (69)・島遺跡 (70)・大ノ前遺跡 (71)・大塚北遺跡 (75)・大塚遺跡 (76)・捨田遺跡 (81)・高道遺跡 (82)・一新替遺跡 (83)・改正遺跡 (84)・天王遺跡 (86)・兵庫遺跡 (87)・南田遺跡 (88)・宗正遺跡 (90)・外畑遺跡 (93) があり、中世の遺跡が継続して営まれてくる状況を反映している可能性がある。

豊川左・岸の沖積地の遺跡 (図 3 94 ~ 118) では、吉田城址・飽海遺跡のある低位段丘を境に内陸側の遺跡と豊川河口から牟呂地区に広がる遺跡に分けて述べる。内陸側の遺跡では、縄文時代の遺跡はなく、弥生時代には桑原遺跡 (103)・長畑遺跡 (107)、古墳時代には王西遺跡 (97)・合倉遺跡 (102) がある。古代には遺跡が多くなり、茶屋遺跡 (94)・下西川原遺跡 (95)・王西遺跡 (97)・下条館 (98)・広間遺跡 (99)・東郷廻遺跡 (100)・郷前遺跡 (101)・合倉遺跡 (102)・桑原遺跡 (103)・水洗遺跡 (104) が確認される。中世には茶屋遺跡 (94)・王西遺跡 (97)・下条館 (98)・広間遺跡 (99)・東郷廻遺跡 (100)・郷前遺跡 (101)・合倉遺跡 (102)・桑原遺跡 (103)・水洗遺跡 (104) が確認される。近世には茶屋遺跡 (94)・下西川原遺跡 (95)・王西遺跡 (97)・東郷廻遺跡 (100)・郷前遺跡 (101)・桑原遺跡 (103)・水洗遺跡 (104) が確認され、古代以後は遺跡が継続して営まれている。豊川河口から牟呂地区の沖積地には、縄文時代の水神貝塚 (第 2 貝塚・115)・築根遺跡 (118)、弥生時代の長畑遺跡 (107)・百北遺跡 (110)・水神貝塚 (第 2 貝塚・115) があり、牟呂地区の段丘下に広がる。三河湾に面した遺跡における盛んな魚貝類の利用が想定される。続く古墳時代には水神貝塚 (第 2 貝塚・115)・水神古窯 (116)・築根遺跡 (118) があり、古代の小島遺跡 (112)・青竹遺跡 (113)・石洲遺跡 (114)・築根北遺跡 (117)・築根遺跡 (118) があり、牟呂地区の段丘から離れた

沖積地の中に遺跡が展開する。中世には豊川河床遺跡 (108)・東小向遺跡 (109)・百北遺跡 (110)・羽田村古城跡 (111)・小島遺跡 (112)・水神貝塚 (第 2 貝塚・115)・築根北遺跡 (117)・築根遺跡 (118) とより多くの遺跡が確認されている。近世以後にも東小向遺跡 (109)・百北遺跡 (110)・小島遺跡 (112)・青竹遺跡 (113)・石洲遺跡 (114)・水神貝塚 (第 2 貝塚・115)・築根北遺跡 (117)・築根遺跡 (118) の遺跡が中世から引き続いて営まれる状況が見られる。

豊川左岸の低位段丘面から中位段丘面の遺跡 (図 3 119 ~ 197) では、吉田城址・飽海遺跡のある低位段丘を境に内陸側の遺跡と牟呂地区から東に広がる遺跡に分けて述べる。内陸側の遺跡では、縄文時代の遺跡では西側北遺跡 (125)・西側遺跡 (127)・洗島遺跡 (130)・おいほて遺跡 (131)・南牛川 C 遺跡 (137)・東先原遺跡 (138)・西先原遺跡 (139)・薬師遺跡 (143)・石塚貝塚 (155) がある。続く弥生時代には、稲荷前遺跡 (121)・熊野遺跡 (122)・眼鏡下池北遺跡 (123)・西側北遺跡 (125)・西側遺跡 (127)・東側遺跡 (128)・おいほて遺跡 (131)・東先原遺跡 (138)・西先原遺跡 (139)・南牛川 D 遺跡 (141)・東田遺跡 (145)・仁連木遺跡 (147)・東郷遺跡 (150) などが豊川にそそぐ東側丘陵地帯を流れる小河川に面した段丘上に立地する。古墳時代には、稲荷山 2 号墳 (119)・稲荷山 1 号墳 (120)・熊野遺跡 (122)・西側北遺跡 (125)・西側遺跡 (127)・洗島遺跡 (130)・牛川 B 遺跡 (132)・田ノ上遺跡 (133)・南台遺跡 (144)・東田遺跡 (145)・東田古墳 (151) があり、集落遺跡とともに少数の古墳もみられる。飽海遺跡 (2) も関わる古代の遺跡では、熊野遺跡 (122)・眼鏡下池北遺跡 (123)・西側北遺跡 (125)・西側遺跡 (127)・東側遺跡 (128)・中郷西遺跡 (129)・洗島遺跡 (130)・おいほて遺跡 (131)・東先原遺跡 (138)・西先原遺跡 (139)・薬師遺跡 (143)・南台遺跡 (144)・東田遺跡 (145) があり、古墳時代の集落から継続するものとその周囲に移っていくものがみられる。中世の遺跡では、熊野遺跡 (122)・中郷遺跡 (124)・西側北遺跡 (125)・西側古墳 (126)・西側遺跡 (127)・東側遺跡 (128)・中郷西遺跡 (129)・

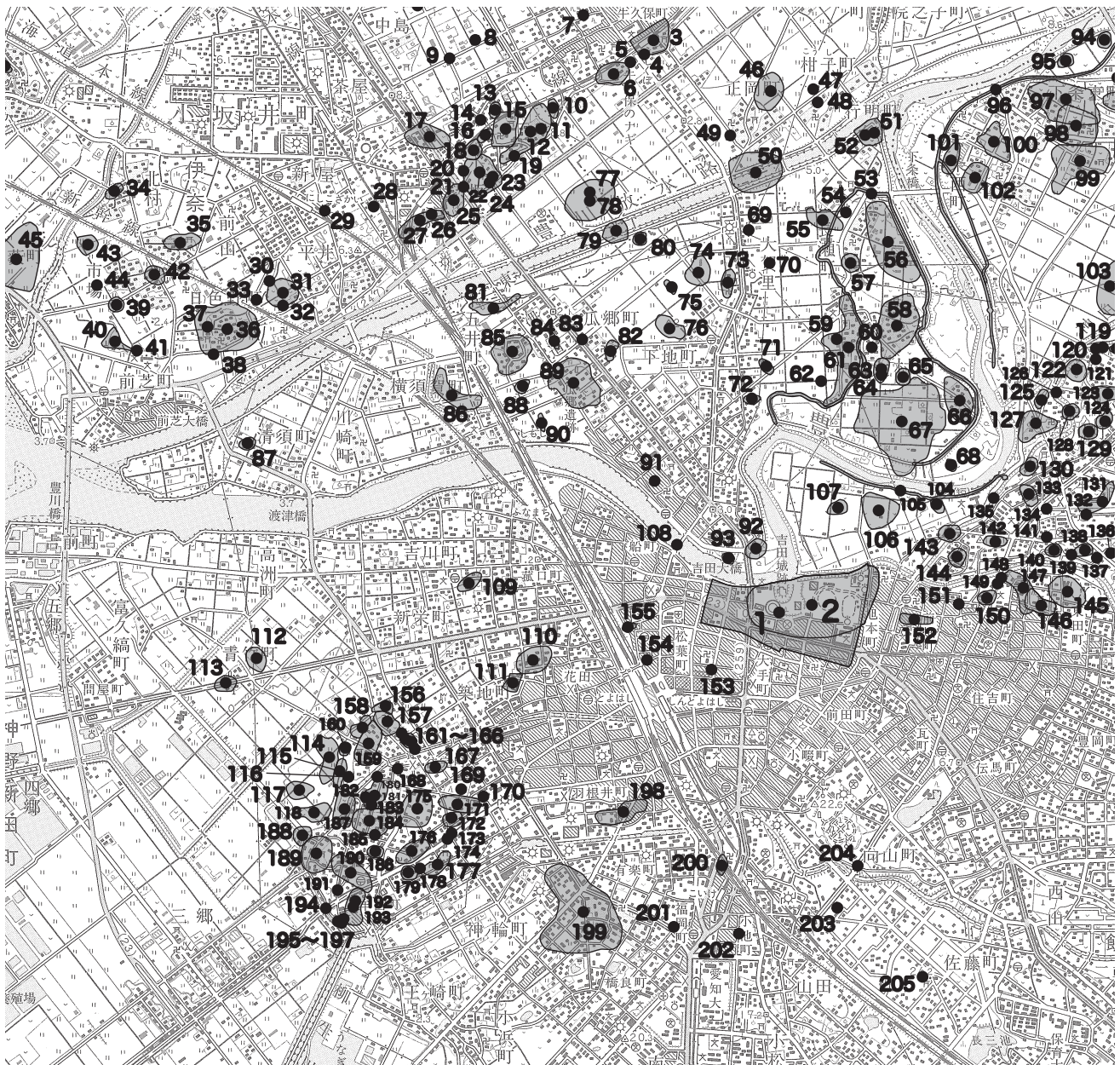


図3 周辺の遺跡 (1:50,000)

洗島遺跡 (130)・おいほて遺跡 (131)・田ノ上遺跡 (133)・牛川北遺跡 (134)・もぐら沢遺跡 (136)・東先原遺跡 (138)・南牛川A遺跡 (140)・薬師寺遺跡 (142)・薬師遺跡 (143)・南台遺跡 (144)・東田遺跡 (145)・二連木城 (146)・仁連木遺跡 (147)・薑郷城址 (148)・仁連木西遺跡 (149)・旭遺跡 (152)・喜見寺砦址 (153)・清源寺砦址 (154) があり、古代に比べて多数の遺跡が分布する。戦国時代の吉田城址 (1) に関わる砦跡が吉田城址 (1) の南西に残る。江戸時代以後も熊野遺跡 (122)・西

側遺跡 (127)・東側遺跡 (128)・中郷西遺跡 (129)・洗島遺跡 (130)・おいほて遺跡 (131)・牛川北遺跡 (134)・牛川焼窯跡 (135)・もぐら沢遺跡 (136)・東先原遺跡 (138)・南牛川A遺跡 (140)・薬師寺遺跡 (142)・薬師遺跡 (143)・南台遺跡 (144)・東田遺跡 (145)・仁連木遺跡 (147)・仁連木西遺跡 (149) がみられ、吉田城址 (1) と関連して東側段丘上に遺跡が確認できる。

牟呂地区から東に広がる低位～中位段丘面上の遺跡では、縄文時代には坂津寺貝塚 (156)・

周辺の遺跡一覧

1. 吉田城址 (縄文・古墳～平安・中世・近世)
2. 飽海遺跡 (弥生～平安・中世)
3. 牛久保城跡 (中世)
4. 牛久保代官所 (近世)
5. 熊野神社遺跡 (弥生)
6. 下長山遺跡 (弥生)
7. 弥生町遺跡 (弥生)
8. 大堀遺跡 (縄文)
9. 篠束城跡 (中世)
10. 下長山堀遺跡 (中世)
11. 魚見古墳 (古墳)
12. 郷中遺跡 (弥生～平安・中世)
13. 西宮遺跡 (奈良・平安・中世)
14. 傾城塚 (中世)
15. 医王寺廃寺跡 (奈良・平安・中世)
16. 若宮遺跡 (弥生～平安)
17. 北浦貝塚 (弥生～平安・中世)
18. 坂地遺跡 (弥生・奈良・平安・中世)
19. 篠束古墳 (古墳)
20. 糟塚岩跡 (中世)
21. 櫻王貝塚 (縄文～平安・中世)
22. 欠山遺跡 (弥生～平安・中世)
23. 糟塚古墳 (古墳)
24. 五社稻荷古墳 (古墳)
25. 菟足神社貝塚 (縄文～奈良)
26. 倉屋敷代官所 (中世・近世)
27. 倉屋敷遺跡 (弥生～平安・中世)
28. 観音山古墳 (古墳)
29. 平井村古屋敷 (不明)
30. 日色野 1 号塚 (中世)
31. 平井遺跡 (縄文～平安・中世)
32. 平井稻荷山貝塚 (縄文・弥生)
33. 日色野 2 号塚 (中世)
34. 北村遺跡 (弥生～平安・中世)
35. 中村遺跡 (弥生～平安・中世)
36. 日色野遺跡 (弥生・奈良・中世・近世)
37. 日色野 3 号塚 (中世)
38. 日色野 4 号塚 (中世)
39. 松見屋敷 (中世)
40. 塩見遺跡 (弥生・奈良・中世・近世)
41. 伊奈遺跡 (弥生)
42. 市場遺跡 (中世)
43. 伊奈城 (上島古城) 跡 (古墳・中世)
44. の場屋敷 (不明)
45. 西神遺跡 (奈良・中世・近世)
46. 正岡遺跡 (弥生)
47. 柑子村古屋敷 A (権田屋敷) (不明)
48. 柑子村古屋敷 B (不明)
49. 正岡村古屋敷 (不明)
50. 行明遺跡 (弥生・古墳・中世)
51. 末広遺跡 (弥生・中世)
52. 行明城跡 (中世)
53. 大村霞堤 (近世)
54. 松ノ木田遺跡 (弥生)
55. 郷西遺跡 (古墳～平安・中世・近世)
56. 上ノ畑遺跡 (中世・近世)
57. 宮井戸遺跡 (中世・近世)
58. 下河原遺跡 (古墳・奈良・中世・近世)
59. 仲田遺跡 (中世)
60. ござうぼう古墳 (古墳)
61. 袋小路遺跡 (中世・近世)
62. 九蔵遺跡 (中世・近世)
63. 塩田遺跡 (弥生・中世)
64. 塩田 1 号塚 (中世・近世)
65. 善蔵遺跡 (中世・近世)
66. 北川原遺跡 (中世・近世)
67. 為河原郷遺跡 (古墳～平安・中世・近世)
68. 高山遺跡 (平安・中世・近世)
69. 橋元遺跡 (中世・近世)
70. 島遺跡 (奈良・中世・近世)
71. 大ノ前遺跡 (縄文・古墳・中世・近世)
72. 大塚遺跡 (中世)
73. 大蚊里貝塚 (縄文・平安・中世)
74. 五貫森貝塚 (縄文・奈良・中世)
75. 大塚北遺跡 (弥生・古墳・中世・近世)
76. 大塚遺跡 (弥生・古墳・中世・近世)
77. 吉添遺跡 (弥生～平安・中世)
78. 吉添遺跡 (弥生)
79. 篠束遺跡 (弥生)
80. 境田遺跡 (弥生)
81. 捨田遺跡 (中世・近世・近現代)
82. 高道遺跡 (中世・近世)
83. 一新替遺跡 (中世・近世・近現代)
84. 改正遺跡 (奈良・近世・近現代)
85. 下五井館 (奈良・中世)
86. 天王遺跡 (奈良・中世・近世)
87. 兵庫遺跡 (中世・近世)
88. 南田遺跡 (古墳・平安・中世・近世)
89. 瓜郷遺跡 (弥生)
90. 宗正遺跡 (縄文・中世・近世)
91. 下地館址 (中世)
92. 緑遺跡 (弥生)
93. 外畑遺跡 (中世・近世)
94. 茶屋遺跡 (奈良・平安・中世・近世)
95. 下西川原遺跡 (奈良・近世)
96. 下条霞堤 (近世)
97. 王西遺跡 (古墳～平安・中世・近世)
98. 下条館 (奈良・中世)
99. 広間遺跡 (奈良・平安・中世)
100. 東郷廻遺跡 (平安・中世・近世)
101. 郷前遺跡 (奈良・中世・近世)
102. 合倉遺跡 (古墳～平安・中世)
103. 桑原遺跡 (弥生・奈良・中世・近世)
104. 水洗遺跡 (奈良・中世・近世)
105. 牛川霞堤 (近世)
106. 宝塚遺跡 (奈良・中世・近世)
107. 長畑遺跡 (弥生・奈良・平安・中世・近世)
108. 豊川河床遺跡 (中世)
109. 東小向遺跡 (中世・近世)
110. 百北遺跡 (弥生・中世・近世)
111. 羽田村古城址 (中世)
112. 小島遺跡 (奈良・中世・近世)
113. 青竹遺跡 (奈良・近世)
114. 石洲遺跡 (奈良・平安・近世)
115. 水神貝塚 (第 2 貝塚) (縄文～古墳・中世)
116. 水神古窯 (古墳)
117. 築根北遺跡 (奈良・平安・中世・近世)
118. 築根遺跡 (縄文・古墳～平安・中世・近世)
119. 稻荷山 2 号墳 (古墳)
120. 稻荷山 1 号墳 (古墳)
121. 稻荷前遺跡 (弥生)
122. 熊野遺跡 (弥生～奈良・中世・近世)
123. 眼鏡下池北遺跡 (縄文・弥生・奈良)
124. 中郷遺跡 (中世)
125. 西側北遺跡 (縄文～平安・中世)
126. 西側古墓 (中世)
127. 西側遺跡 (縄文～奈良・中世・近世)
128. 東側遺跡 (弥生・奈良・平安・中世・近世)
129. 中郷西遺跡 (中世・近世)
130. 洗島遺跡 (縄文・古墳～平安・中世・近世)
131. おいほて遺跡 (縄文・弥生・奈良・平安・中世・近世)
132. 牛川 B 遺跡 (古墳)
133. 田ノ上遺跡 (古墳・中世)
134. 牛川北遺跡 (中世・近世)
135. 牛川焼窯跡 (近世)
136. もぐら沢遺跡 (中世・近世)
137. 南牛川 C 遺跡 (縄文)
138. 東先原遺跡 (縄文・弥生・奈良・平安・中世・近世)
139. 西先原遺跡 (縄文・弥生・奈良・平安)
140. 南牛川 A 遺跡 (中世・近世)
141. 南牛川 D 遺跡 (弥生)
142. 薬師寺遺跡 (中世・近世)
143. 薬師遺跡 (縄文・奈良・中世・近世)
144. 南台遺跡 (古墳・中世・近世)
145. 東田遺跡 (弥生・古墳・中世)
146. 二連木城 (中世)
147. 仁連木遺跡 (弥生・中世・近世)
148. 臺郷城址 (中世)
149. 仁連木西遺跡 (中世・近世)
150. 東郷遺跡 (弥生)
151. 東田古墳 (古墳)
152. 旭遺跡 (中世)
153. 喜見寺岩址 (中世)
154. 清源寺岩址 (中世)
155. 石塚貝塚 (縄文)
156. 坂津寺貝塚 (縄文・奈良・中世・近世)
157. 境松遺跡 (弥生・古墳・中世)
158. 内田貝塚 (縄文～平安・中世・近世)
159. 若宮遺跡 (縄文・奈良・平安・中世・近世)
160. 水神貝塚 (第 1 貝塚) (縄文～平安・中世・近世)
161. 三ツ山 2 号墳 (古墳)
162. 三ツ山 3 号墳 (古墳)
163. 三ツ山 4 号墳 (古墳)
164. 三ツ山古墳 (三ツ山 1 号墳) (古墳・中世)
165. 三ツ山 5 号墳 (古墳)
166. 三ツ山 6 号墳 (古墳)
167. 八王子神社遺跡 (奈良・中世・近世)
168. 外神遺跡 (弥生・奈良・近世)
169. 牟呂八幡神社古墳 (古墳)
170. 王塚貝塚 (縄文)
171. 見丁塚遺跡 (弥生～平安・中世・近世)
172. 林遺跡 (縄文・奈良・中世・近世)
173. 東脇古墳 (古墳)
174. 高良社遺跡 (奈良・中世・近世)
175. 市道西遺跡 (奈良・中世・近世)
176. 染法寺北遺跡 (奈良・中世・近世)
177. 東脇遺跡 (縄文～平安)
178. 権現神社古墳 (古墳)
179. 行合遺跡 (縄文・奈良・中世・近世)
180. 市道北遺跡 (近世)
181. 市道遺跡 (奈良・平安・中世・近世)
182. 市道 3 号窯 (奈良)
183. 市道 1 号窯 (奈良)
184. 公文遺跡 (古墳～平安・中世・近世)
185. 牟呂城址 (中世)
186. 公文南遺跡 (古墳・中世・近世)
187. 大海津遺跡 (縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世)
188. 大西貝塚 (縄文・古墳・中世・近世)
189. 大西遺跡 (古墳～平安・中世・近世)
190. 中村遺跡 (中世・近世)
191. 作神遺跡 (弥生～奈良・中世・近世)
192. 牟呂王塚古墳 (古墳)
193. 市場遺跡 (縄文～平安・中世・近世)
194. さんまい貝塚 (縄文～平安・中世・近世・近現代)
195. 市杵嶋神社古墳 (古墳)
196. 市杵嶋神社貝塚 (縄文・弥生)
197. 市杵嶋神社古墳 (中世・近世)
198. 羽根井遺跡 (古墳～平安・中世・近世)
199. 橋良遺跡 (縄文～平安・中世・近世)
200. 潮満遺跡 (中世・近世)
201. 橋良東郷古窯 (古墳)
202. 高師石塚古墳 (古墳)
203. 土亀遺跡 (中世)
204. 川北遺跡 (古墳)
205. 佐藤一本木古窯 (中世)

内田貝塚 (158)・若宮遺跡 (159)・水神貝塚 (第1貝塚) (160)・王塚貝塚 (170)・林遺跡 (172)・東脇遺跡 (177)・行合遺跡 (179)・大海津遺跡 (187)・大西貝塚 (188)・市場遺跡 (193)・さんまい貝塚 (194)・市杵嶋神社貝塚 (196) があり、先に述べたように三河湾に面した段丘下に広がる遺跡とともに三河湾における盛んな魚貝類の利用が想定される遺跡群と思われる。続く弥生時代にも、境松遺跡 (157)・内田貝塚 (158)・水神貝塚 (第1貝塚) (160)・外神遺跡 (168)・見丁塚遺跡 (171)・東脇遺跡 (177)・作神遺跡 (191)・市場遺跡 (193)・さんまい貝塚 (194)・市杵嶋神社貝塚 (196) があり、弥生時代中期後葉の境末遺跡では竪穴住居や大型掘立柱建物などが確認されている。境松遺跡では弥生時代後期の環濠と考えられる溝が確認されている。古墳時代には、境松遺跡 (157)・内田貝塚 (158)・水神貝塚 (第1貝塚) (160)・三ツ山2号墳 (161)・三ツ山3号墳 (162)・三ツ山4号墳 (163)・三ツ山古墳 (三ツ山1号墳) (164)・三ツ山5号墳 (165)・三ツ山6号墳 (166)・牟呂八幡神社古墳 (169)・見丁塚遺跡 (171)・東脇古墳 (173)・東脇遺跡 (177)・権現神社古墳 (178)・公文遺跡 (184)・公文南遺跡 (186)・大海津遺跡 (187)・大西貝塚 (188)・大西遺跡 (189)・作神遺跡 (191)・牟呂王塚古墳 (192)・市場遺跡 (193)・さんまい貝塚 (194)・市杵嶋神社古墳 (195)・市杵嶋神社貝塚 (196) があり、豊橋市内の海岸部では比較的多く古墳と集落遺跡がみられる地区である。古代の遺跡では、坂津寺貝塚 (156)・内田貝塚 (158)・若宮遺跡 (159)・水神貝塚 (第1貝塚) (160)・八王子神社遺跡 (167)・外神遺跡 (168)・見丁塚遺跡 (171)・林遺跡 (172)・高良社遺跡 (174)・市道西遺跡 (175)・楽法寺北遺跡 (176)・東脇遺跡 (177)・行合遺跡 (179)・市道遺跡 (181)・市道3号窯 (182)・市道1号窯 (183)・公文遺跡 (184)・大海津遺跡 (187)・大西遺跡 (189)・作神遺跡 (191)・市場遺跡 (193)・さんまい貝塚 (194) があり、古墳時代から継続して営まれている遺跡も多くみられる。中世の遺跡では、坂津寺貝塚 (156)・境松遺跡 (157)・内田貝塚 (158)・若宮遺跡 (159)・水神貝塚 (第1貝塚) (160)・三ツ山

古墳 (三ツ山1号墳) (164)・八王子神社遺跡 (167)・見丁塚遺跡 (171)・林遺跡 (172)・高良社遺跡 (174)・市道西遺跡 (175)・楽法寺北遺跡 (176)・行合遺跡 (179)・市道遺跡 (181)・公文遺跡 (184)・牟呂城址 (185)・公文南遺跡 (186)・大海津遺跡 (187)・大西貝塚 (188)・大西遺跡 (189)・中村遺跡 (190)・作神遺跡 (191)・市場遺跡 (193)・さんまい貝塚 (194)・市杵嶋神社古墳 (197) があり、集落・古墳・城址など多様な遺跡がみられる。近世の遺跡では、坂津寺貝塚 (156)・内田貝塚 (158)・若宮遺跡 (159)・水神貝塚 (第1貝塚) (160)・八王子神社遺跡 (167)・外神遺跡 (168)・見丁塚遺跡 (171)・林遺跡 (172)・高良社遺跡 (174)・市道西遺跡 (175)・楽法寺北遺跡 (176)・行合遺跡 (179)・市道北遺跡 (180)・市道遺跡 (181)・公文遺跡 (184)・公文南遺跡 (186)・大海津遺跡 (187)・大西貝塚 (188)・大西遺跡 (189)・中村遺跡 (190)・作神遺跡 (191)・市場遺跡 (193)・さんまい貝塚 (194)・市杵嶋神社古墳 (197) があり、現代に続く遺跡が認められる。

その他として豊川市の伊奈川流域の沖積地に立地する市場遺跡 (42)・伊奈城 (上島古城) 跡 (43)・的場遺跡 (44)・西神遺跡 (45) や柳生川流域の沖積地から低位段丘面に立地する羽根井遺跡 (198)・橋良遺跡 (199)・潮満遺跡 (200)・橋良東郷古窯 (201)・高師石塚古墳 (202)・土亀遺跡 (203)・川北遺跡 (204)・佐藤一本木古窯 (205) がある。橋良遺跡では、弥生時代中期後葉の竪穴住居や土坑などが確認されている。

第2章 遺構

第1節 基本層序

調査地点のある愛知県東三河建設事務所の北側駐車場の地表面が標高 9.65m 前後にある。調査区中央部の 22C 区と調査区南側の 22B 区では、現代の整地土の表土を深さ 0.50m 前後下げると、標高 9.15m ～ 9.20m 前後にて 10YR4/4 褐色粘土質シルトに細礫～大礫を多く含む地山面となる（図 4～図 6）。

遺構検出は地山面にて行い、平安時代末～鎌倉時代と江戸時代後期の大きく 2 時期の遺構が確認された（図 4・図 7・図 8・表 2）。以下、時代毎に報告する。

第2節 平安時代末～鎌倉時代

小型の土坑 17 基を調査区中央部 22C 区から南部 22B 区にかけて確認できた。これらの土坑は、江戸時代後期の溝の下から検出されている。調査範囲が狭いため、柱穴列の並びを確認することができない。

○ 003SK: 平面円形丸底の土坑で、長軸 0.18m、短軸 0.16m、深さ 0.02m を測る。埋土は 10YR3/3 黒褐色粘土質シルトに細礫～中礫を含む。

○ 004SK: 平面円形丸底の土坑で、長軸 0.27m、短軸 0.23m、深さ 0.24m を測る。埋土は 10YR2/2 黒褐色粘土に細礫～中礫を多く含む。

○ 005SK: 平面円形丸底の土坑で、長軸 0.24m、短軸 0.22m、深さ 0.14m を測る。土坑の西側に径 0.10m 程の柱痕跡がみられる。埋土は 10YR2/2 黒褐色粘土に細礫～中礫を多く含むもので、柱痕跡の部分は、10YR3/3 暗褐色粘土質シルトに細礫～中礫を含む。

○ 006SK: 平面楕円形丸底の土坑で、長軸 0.34m、短軸 0.24m、深さ 0.13m を測る。土坑の西側に径 0.15m 程の柱痕跡がみられる。埋土は 10YR2/1 黒色粘土質シルトに細礫～中礫を多く含むもので、柱痕跡の部分は、10YR2/2 黒褐色粘土質シルトに細礫～中礫を少量含む。

○ 007SK: 平面円形丸底の土坑で、長軸 0.30m、短軸 0.27m、深さ 0.15m を測る。埋土は上層

が 10YR2/3 黒褐色粘土質シルトに細礫～小礫を含むもので、下層は 10YR2/2 黒褐色粘土質シルトに細礫～中礫を含む。中世陶器の甕片が少しまとまって出土した。

○ 008SK: 平面円形丸底の土坑で、長軸 0.28m、短軸 0.24m、深さ 0.14m を測る。埋土は 10YR3/1 黒褐色粘土質シルトに細礫～中礫を多く含む。

○ 009SK: 平面円形丸底の土坑で、長軸 0.32m、短軸 0.31m、深さ 0.16m を測る。埋土は 10YR2/3 黒褐色粘土質シルトに細礫～中礫を多く含む。

○ 010SK: 平面円形丸底の土坑で、土坑の北側部分を確認できた。長軸 0.28m、深さ 0.08m を測る。埋土は 10YR3/3 暗褐色粘土質シルトに細礫～中礫を多く含む。

○ 011SK: 平面楕円形丸底の土坑で、長軸 0.32m、短軸 0.22m、深さ 0.18m を測る。埋土は 10YR3/2 黒褐色粘土質シルトに細礫～中礫を多く含む。

○ 012SK: 平面円形丸底の土坑で、長軸 0.12m、短軸 0.10m、深さ 0.02m を測る。埋土は 10YR3/3 黒褐色粘土質シルトに細礫～小礫を含む。

○ 013SK: 平面円形丸底の土坑で、土坑の北側部分を確認できた。長軸 0.30m、深さ 0.09m を測る。埋土は 10YR2/1 黒色粘土質シルトに細礫～小礫を含む。

○ 014SK: 平面円形丸底の土坑で、長軸 0.29m、短軸 0.24m、深さ 0.11m を測る。土坑の南側に径 0.17m の柱痕跡を確認した。埋土は 10YR3/2 黒褐色粘土質シルトに細礫～中礫を多く含むもので、柱痕跡の部分は、10YR2/2 黒褐色粘土質シルトに細礫～中礫を多く含む。

○ 015SK: 平面楕円形丸底の土坑で、長軸 0.32m、短軸 0.25m、深さ 0.42m を測る。土坑の南側に径 0.15m の柱痕跡を確認した。埋土は 10YR3/3 暗褐色粘土質シルトに細礫～中礫を多く含むもので、柱痕跡の部分は、10YR2/3 黒褐色粘土質シルトに細礫～中礫を多く含む。

○ 016SK: 平面円形丸底の土坑で、長軸 0.24m、

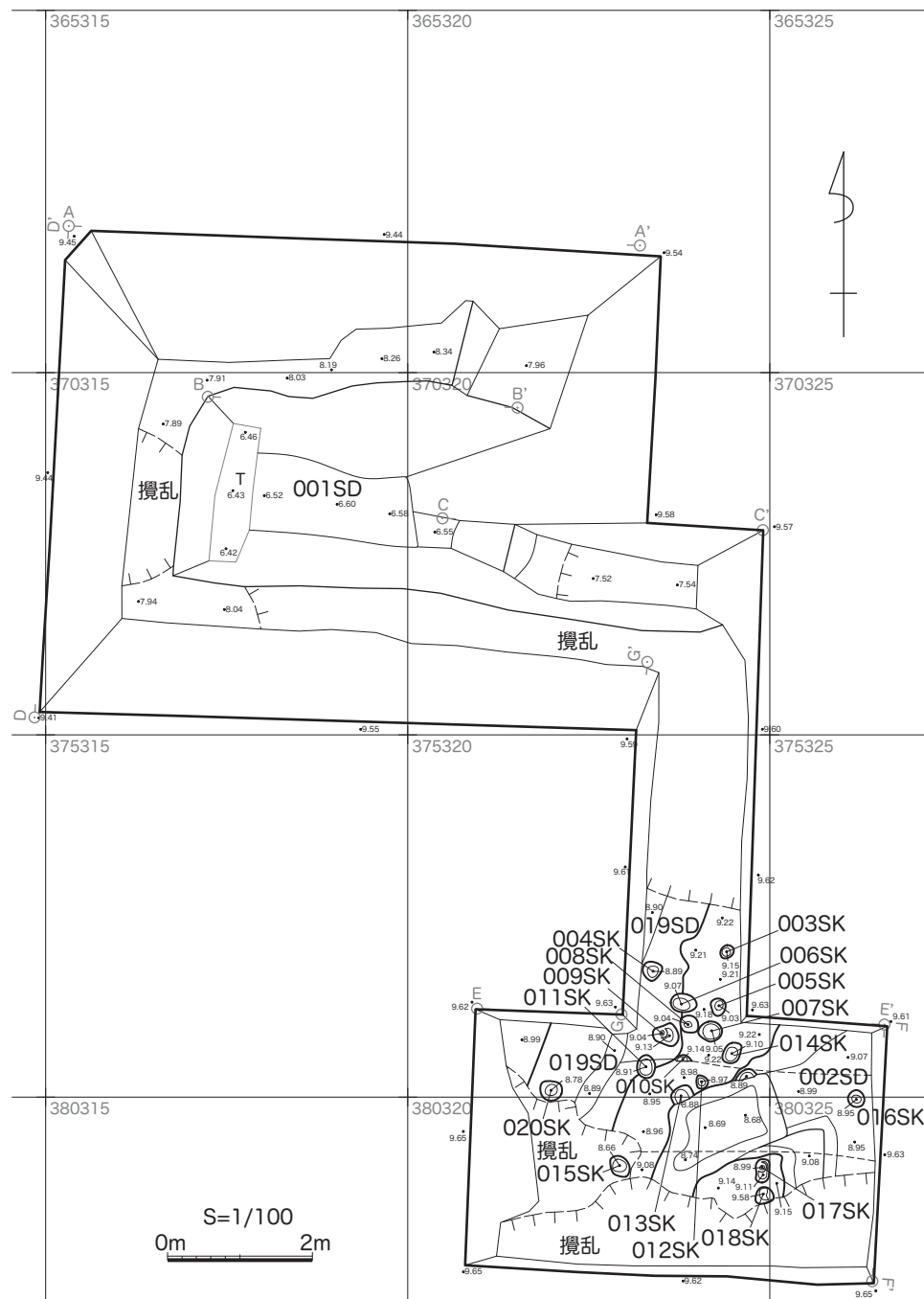


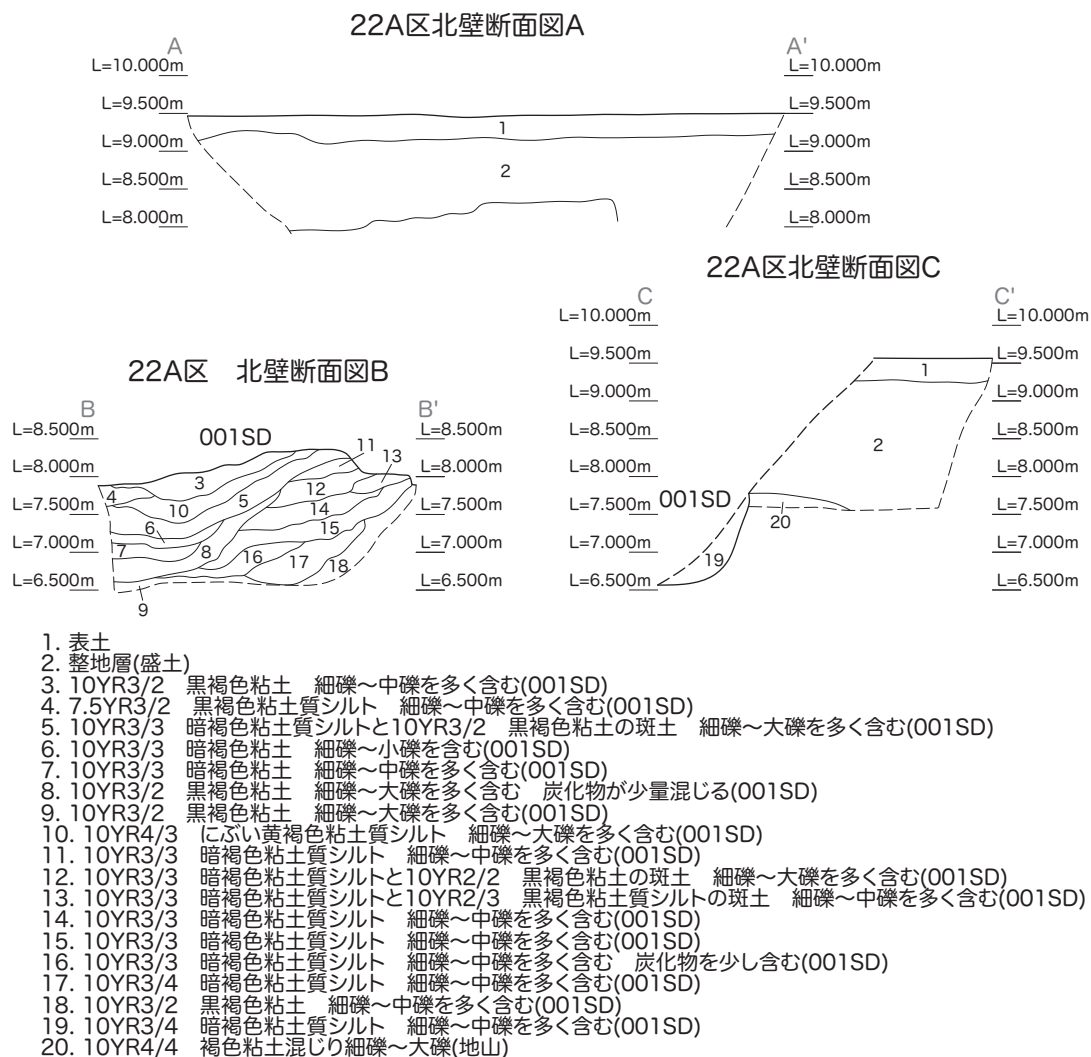
図4 遺構平面図 (1:100)

短軸 0.21m、深さ 0.05m を測る。埋土は 10YR2/2 黒褐色粘土質シルトに細礫～小礫を含む。

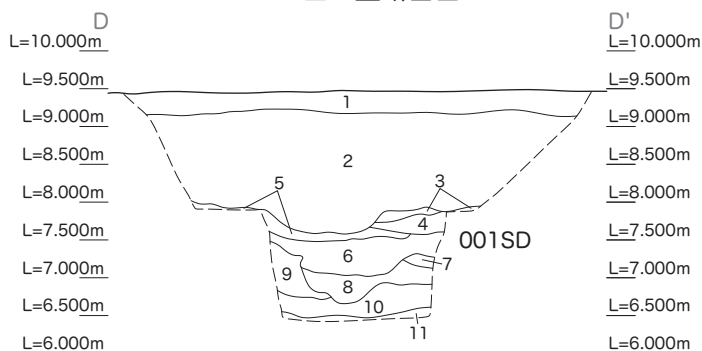
○017SK: 平面円形丸底の土坑で、長軸 0.29m、短軸 0.26m、深さ 0.20m を測る。埋土は上層が 10YR3/2 黒褐色粘土質シルトに小礫を少し含むもので、下層が 10YR2/2 黒褐色粘土質シ

ルトに 10YR4/4 褐色粘土を少し混じる斑土に細礫～中礫を多く含む。

○018SK: 平面円形丸底の土坑で、長軸 0.23m、短軸 0.22m、深さ 0.25m を測る。土坑の中央に径 0.10m 程の柱痕跡を確認した。埋土は 10YR3/3 暗褐色粘土質シルトと 10YR4/4 褐色粘土の斑土に細礫～小礫を少し含むもので、柱



22A区西壁断面図



1. 表土
 2. 整地層(盛土)
 3. 10YR3/2 黒褐色粘土 細礫～中礫を多く含む(001SD)
 4. 7.5YR3/2 黒褐色粘土質シルト 細礫～中礫を多く含む(001SD)
 5. 10YR3/4 暗褐色粘土 細礫～大礫を多く含む(001SD)
 6. 10YR3/3 暗褐色粘土質シルトと10YR3/2 黒褐色粘土の斑土 細礫～大礫を多く含む(001SD)
 7. 10YR3/3 暗褐色粘土 細礫～小礫を含む(001SD)
 8. 10YR3/3 暗褐色粘土 細礫～中礫を多く含む(001SD)
 9. 2.5Y3/2 黒褐色シルト混じり粘土 細礫～中礫を多く含む 炭化物が少量混じる(001SD)
 10. 10YR3/2 黒褐色粘土 細礫～大礫を多く含む 炭化物が少量混じる(001SD)
 11. 10YR3/2 黒褐色粘土 細礫～大礫を多く含む(001SD)

図5 基本層序1 (1:100)

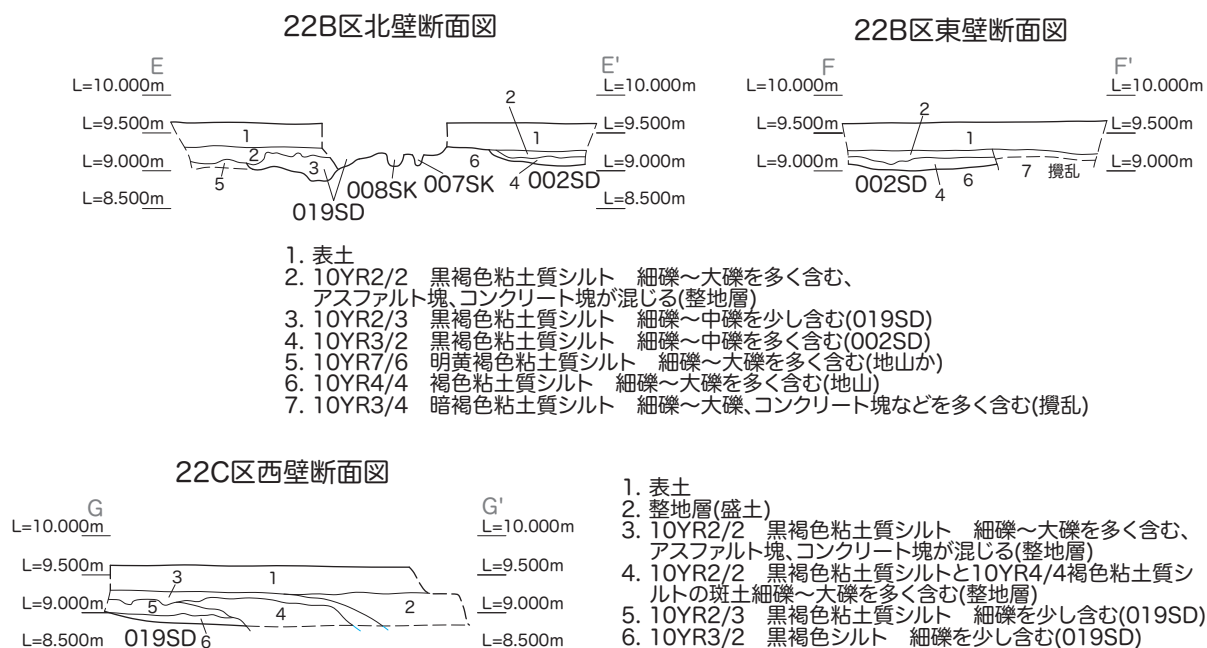


図6 基本層序2 (1:100)

痕跡の部分は、10YR3/3 暗褐色粘土質シルトに細礫～小礫を少し含む。

○021SK：平面円形丸底の土坑で、土坑の北側部分を確認した。長軸 0.28m、短軸 0.27m、深さ 0.27m を測る。埋土は 10YR2/2 黒褐色粘土質シルトに細礫～小礫を含む。

第3節 江戸時代後期

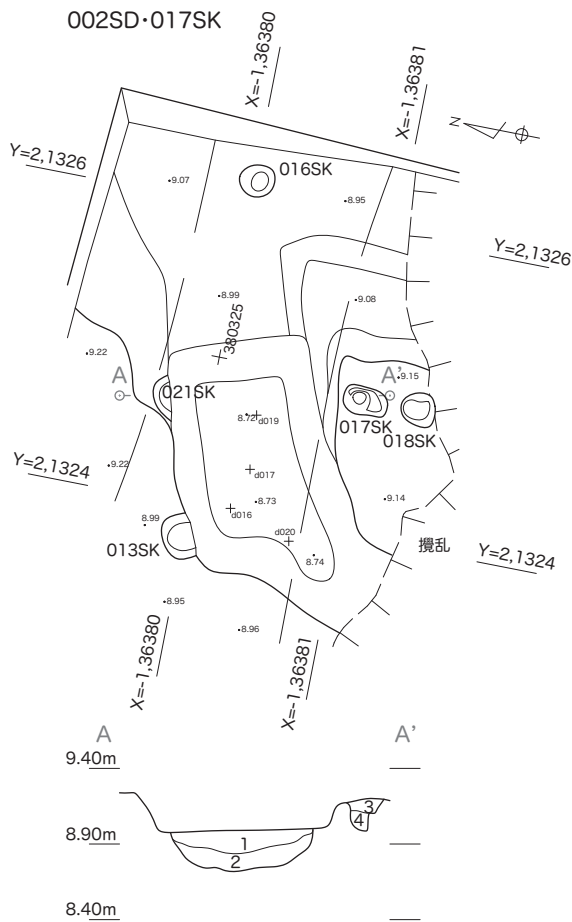
調査区北部の22A区で堀1条、調査区中部の22C区から南部の22B区にて溝2条を確認した。

○001SD：吉田城址の北東部に南北にはしる外堀の東肩部の一部と思われる。調査区北側の22A区にて、地表面から表土 0.30m 程、その下に昭和期の整地土 1.4m 程を除去した標高 8.0m 前後から堀の堆積層上端を確認した。堀の東壁・肩部を確認し、東西幅 6m 以上を確認したが、標高 6.5m 前後より下は開発の建築に伴う深度限界にあたったため、堀の底は確認できなかった。001SDの埋土の堆積状況から、22A区北壁断面図Bの3層～8層を001SDの上層、11層～19層を001SDの下層として掘削した。出土遺物による時期差は認められなかった。埋土は一律ではないが、10YR3/2 黒褐色粘土質シルト～10YR3/4 暗褐色粘土質シ

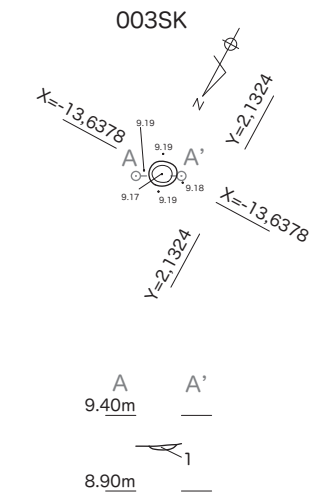
ルトに細礫～大礫を多く含むものである。また埋土中に、炭化物も少量散見された。

○002SD：幅 1.0m 以上の溝の北東隅部にあたる。調査区南東隅部で西南西から南に折れて伸びる。深さは 0.15m 前後であるが、溝の北東隅部の西南西にて長さ 1.55m、幅 1.0m の長方形土坑状に 0.30m 程下がる部分がある。埋土は、上層が 10YR3/4 暗褐色粘土質シルトに小礫を少し含むもので、下層が 10YR2/3 黒褐色粘土質シルトに細礫～大礫を多く含む。

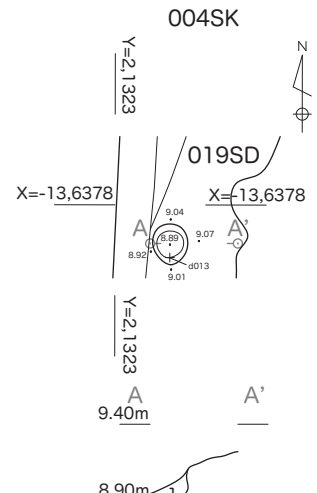
○019SD：北北東から南南西に流れる溝で、長さ 3.5m 程を確認した。当初、001SDの東肩部の可能性も含めて調査をしたが、遺構掘削時には幅 1.50m 前後、深さ 0.18m を測る別の溝と考えられた。埋土は 10YR2/3 黒褐色粘土質シルトに細礫～中礫を少し含む。



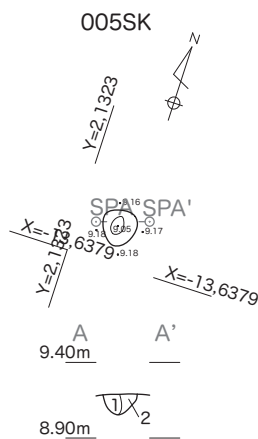
1. 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト
細礫～中礫を多く含む(002SD)
2. 10YR2/3 黒褐色粘土質シルト
細礫～大礫を多く含む(002SD)
3. 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト
小礫を少し含む(017SK)
4. 10YR2/2 黒褐色粘土質シルトに
10YR4/4 褐色粘土を少し混じる斑土
細礫～中礫を多く含む(017SK)



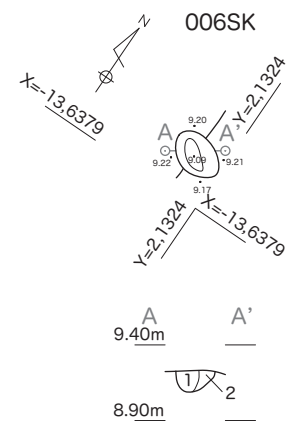
1. 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト
細礫～中礫を含む



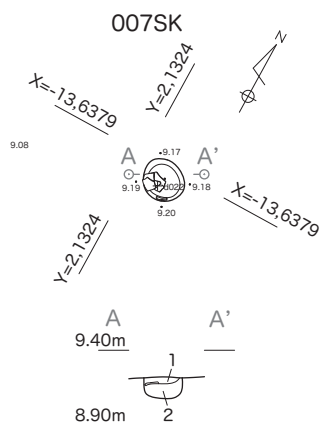
1. 10YR2/2 黒褐色粘土
細礫～中礫を多く含む



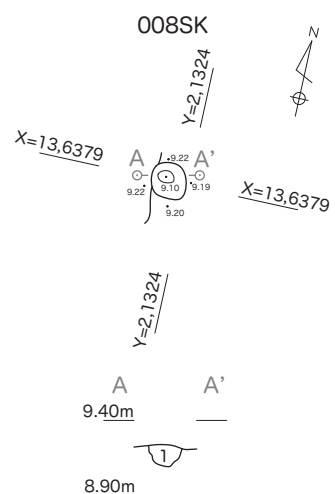
1. 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト
細礫～中礫を含む



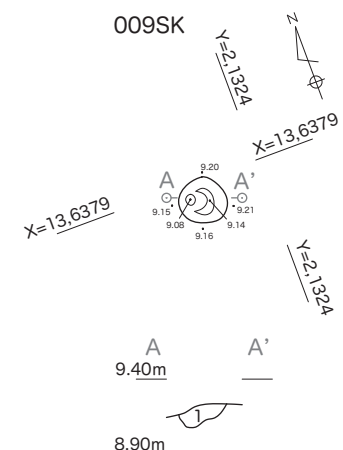
1. 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト
細礫～中礫を少量含む
2. 10YR2/1 黒色粘土質シルト
細礫～中礫を多く含む



1. 10YR2/3 黒褐色粘土質シルト
細礫～小礫を含む
2. 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト
細礫～中礫を多く含む



1. 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト
細礫～中礫を多く含む



1. 10YR2/3 黒褐色粘土質シルト
細礫～中礫を多く含む

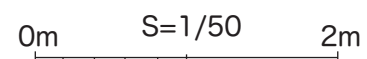


図7 個別遺構図1 (1:50)

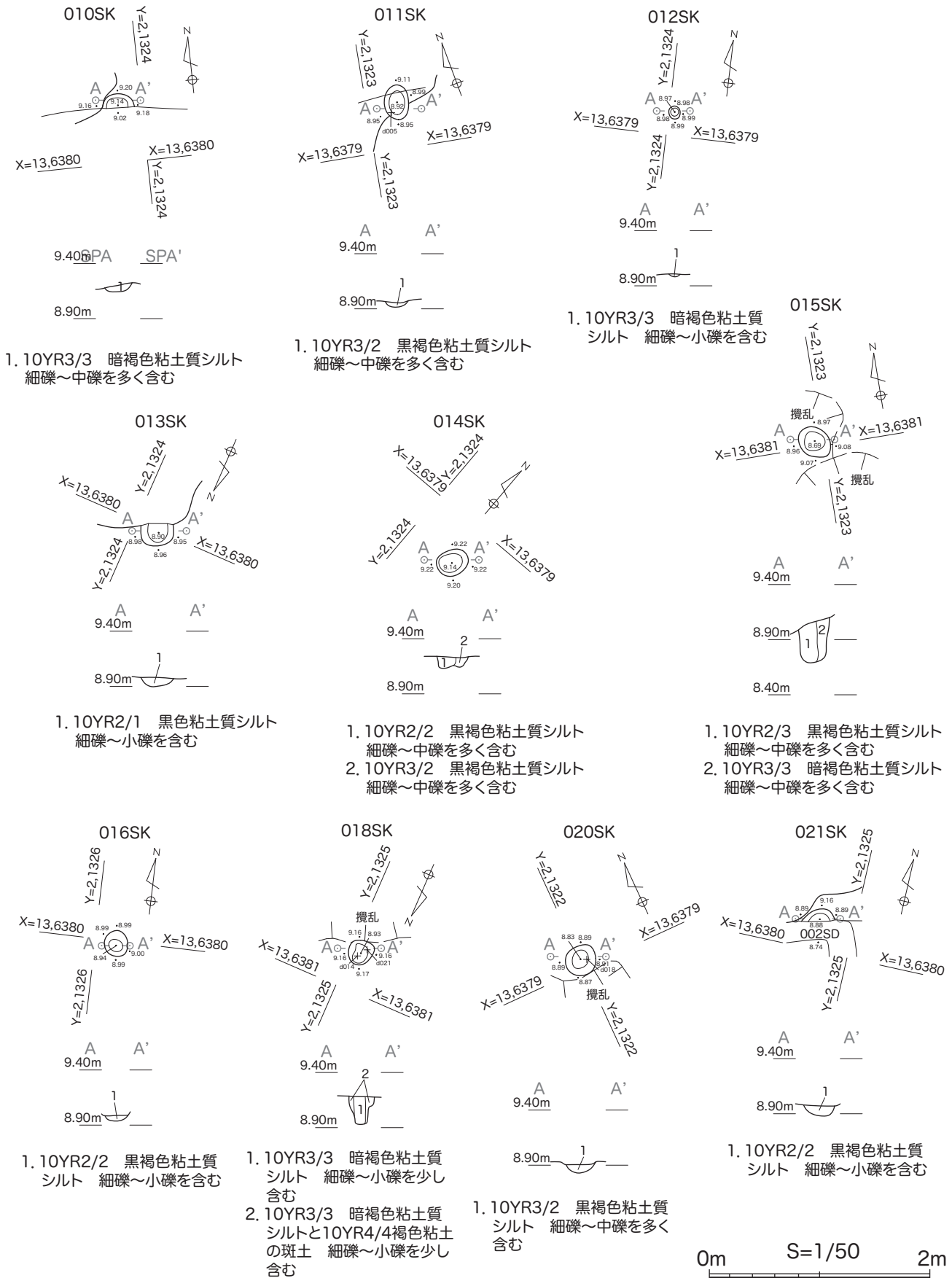


図8 個別遺構図2 (1:50)

表2 遺構一覧表

調査区	遺構記号	グリッド	地層	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	埋土	調査日時	出土遺物	備考	時期	切り合い (古→新)
22A	001SD	365315・ 365320・ 370315・ 370320	1	-3.5	-4.8	-1.48	10YR3/2 黒褐色粘土 細 礫～中礫を多く含む	221214	施釉陶器・染付磁器・ 磁器・瓦・山茶碗	断面不明	江戸時代、 吉田城址の 外堀	
22B	002SD	375320・ 375325・ 380320・ 380325	1	-3.5	2	0.15	10YR3/2 黒褐色粘土質シ ルト 細礫～中礫を多く含む	221209	施釉陶器・染付磁器・ 磁器・瓦・山茶碗	断面皿型、西 側の部分で深 さ0.50mの土 坑状	江戸時代	016SK→002SD、 013SK→002SD、 021SK→002SD
22C	003SK	375320	1	0.18	0.16	0.02	10YR3/3 暗褐色粘土質シ ルト 細礫～中礫を含む	221209		平面円形	鎌倉時代	
22C	004SK	375320	1	0.27	0.23	0.24	10YR2/2 黒褐色粘土 細 礫～中礫を多く含む	221209		平面円形	鎌倉時代	004SK→019SD
22C	005SK	375320	1	0.24	0.22	0.14	10YR2/2 黒褐色粘土 細 礫～中礫を多く含む	221209		平面円形、柱 痕跡あり	鎌倉時代	
22C	006SK	375320	1	0.34	0.24	0.13	10YR2/1 黒色粘土質シル ト 細礫～中礫を多く含む	221209		平面円形、柱 痕跡あり	鎌倉時代	
22B	007SK	375320	1	0.3	0.27	0.15	10YR2/3 黒褐色粘土質シ ルト 細礫～小礫を含む	221209	中世陶器類	平面円形	鎌倉時代	
22B	008SK	375320	1	0.28	0.24	0.14	10YR3/1 黒褐色粘土質シ ルト 細礫～中礫を多く含む	221209		平面円形	鎌倉時代	
22B	009SK	375320	1	0.32	0.31	0.16	10YR2/3 黒褐色粘土質シ ルト 細礫～中礫を多く含む	221209		平面円形	鎌倉時代	
22B	010SK	375320	1	0.28	-0.13	0.08	10YR3/3 暗褐色粘土質シ ルト 細礫～中礫を多く含む	221209		平面円形	鎌倉時代	
22B	011SK	375320	1	0.32	0.22	0.18	10YR3/2 黒褐色粘土質シ ルト 細礫～中礫を多く含む	221209		平面楕円形	鎌倉時代	011SK→019SD
22B	012SK	375320	1	0.12	0.1	0.02	10YR3/3 暗褐色粘土質シ ルト 細礫～小礫を含む	221209		平面円形	鎌倉時代	
22B	013SK	375320・ 380320	1	0.3	-0.2	0.09	10YR2/1 黒色粘土質シル ト 細礫～小礫を含む	221209		(平面円形)	鎌倉時代	013SK→002SD
22B	014SK	375320	1	0.29	0.24	0.11	10YR3/2 黒褐色粘土質シ ルト 細礫～中礫を多く含む	221209		平面円形、柱 痕跡あり	鎌倉時代	
22B	015SK	380320	1	0.32	0.25	0.42	10YR3/3 暗褐色粘土質シ ルト 細礫～中礫を多く含む	221209		平面楕円形、 柱痕跡あり	鎌倉時代	
22B	016SK	375325・ 380325	1	0.24	0.21	0.05	10YR2/2 黒褐色粘土質シ ルト 細礫～小礫を含む	221213		平面円形	鎌倉時代	016SK→002SD
22B	017SK	380320	1	0.29	0.26	0.2	10YR3/2 黒褐色粘土質シ ルト 小礫を少し含む	221209		平面不整形円 形	鎌倉時代	
22B	018SK	380320	1	0.23	0.22	0.25	10YR3/3 暗褐色粘土質シ ルトと10YR4/4 褐色粘土 の斑土 細礫～小礫を少し含 む	221209	石炭	平面円形、柱 痕跡あり	鎌倉時代	
22B ・ 22C	019SD	375320・ 380320	1	-3.1	1.3	0.18	10YR2/3 黒褐色粘土質シ ルト 細礫～中礫を少し含む	221214	施釉陶器・染付磁器・ 磁器・瓦・山茶碗	断面やや 「V」字形	江戸時代	004SK→019SD、 011SK→019SD
22B	020SK	375320・ 380320	1	0.29	0.27	0.1	10YR3/2 黒褐色粘土質シ ルト 細礫～中礫を多く含む	221209		平面円形	鎌倉時代	
22B	021SK	375320	1	0.28	-0.11	0.27	10YR2/2 黒褐色粘土質シ ルト 細礫～小礫を含む	221214		平面円形	鎌倉時代	021SK→002SD

第3章 出土遺物

出土遺物には、打製石鏃の未製品から近代にわたるものがみられ、飽海遺跡と関連する古代の須恵器・灰釉陶器と中世の焼き締め陶器、吉田城址と関連する瀬戸・美濃窯産陶磁器・土師器などがある。本節では、遺物の出土した遺構毎に報告する（図9～図12・表3～表6）。

第1節 土器・陶磁器（E1～E81）

○001SD（E1～E59）：001SDは上層のE1～E21と下層のE22～E59に分けて報告する。

上層の出土遺物で、E1は須恵器の杯身で、底部径9.5cmを測る、8世紀前半のものと思われる。E2～E7は瀬戸・美濃窯産陶器で、江戸時代後期～近代のものである。E2・E3は緩く丸みをもつ体部から口縁部が垂直に立ち上がる腰鍔茶碗、E2はロクロナデ後外面の体部下半を回転ヘラ削り、その後体部中央部に沈線直線文4条がめぐり、内面灰釉で外面は鉄釉後口縁部に灰釉を施す、口縁部径9.8cm、器高4.05cmを測る。E3は口縁部径10.0cm、高台部径4.0cm、器高6.3cmを測る、ロクロナデ後体部下半は回転ヘラ削り、貼り付け高台か。E4は内・外面灰釉の丸碗で、底部径3.7cmである、底部から全体に丸みをもって口縁部にいたる、底部は糸切り後回転ヘラ削りで、高台を削り出している。E5は内・外面鉄釉の小型甕で口縁部径15.0cmを測る。E6は鉄釉の擂鉢の口縁部で、口縁部径19.6cm。E7は緑色釉の施された調理具の鉢と思われるもの、外面は型押し成形と思われる。E8～E21は瀬戸・美濃窯産磁器で、江戸時代後期～近代のものである。E8～E10は口縁部径6.4cm～8.0cmの小丸碗で、E8の内面に染付の草文がみられる。E11は染付箱型湯呑で、内面口縁部に染付直線文1条、外面に染付菊花ちらし文に細かい格子文を充填している。E12・E13・E15は染付丸碗で、E12の内面中央部に染付花文とその周囲に直線文2条、外面底部際に染付直線文2条がみられる。E13は内面口縁部に染付雷文、外面に染付花草文、E15は外面に染付草花文がみら

れ、内・外面に貫入がみられる。E14は染付端反小碗で、口縁部径8.7cm、高台部径3.25cm、器高4.45cmのものである。E16は染付皿で、内面底部に染付カエデ文絵、外面の底部と体部に染付草文がみられる。E17は土師器の蚊いぶしで、口縁部が丸く肥厚しておわるもの、口縁部径は14.0cm、内面に煤・炭化物が付着している。E18～E21は瓦で江戸時代後期～近代にかけてのものである。E18は丸瓦の基部で高さ6.3cm、凹に模骨板痕がみられる。E19・E20は棧瓦で、E19は棧瓦の基部側の切り込みはなし、高さ4.2cmを測る。E19の凸面・凹面とE20の凸面に離れ砂が残る。E21は道具瓦の一部で、凸面・凹面の側面側の縁をナデ調整で整えている。

下層の出土遺物で、E22は灰釉陶器の皿で高台部径8.0cm、ロクロナデ後外面底部を糸切り、高台を貼り付けている、内面底部が磨滅している。E23・E24は山茶碗で、ロクロナデ後底部を糸切りして、高台を貼りつけている、平安時代末～鎌倉時代のもと思われる。E25・E26は天目茶碗で、E25は戦国時代のもの、E26は江戸時代のもと思われる。E27～E32・E34～E37は江戸時代後期～近代の瀬戸・美濃窯産陶器である。E27～E29は内・外面灰釉の丸碗で、E27は高台部径2.9cmの小型のもの、E28・E29は高台部径4.3cm～4.4cm、E27・E28は削り出し高台のもの、E29は貼り付け高台のものである。E30は内・外面灰釉の端反鉢か折縁鉢で、内面にハケ状擦り目、高台は削り出し成形のものである。E31は内・外面灰釉の丸皿で、口縁部径12.0cmのものである。E32は内・外面長石釉の皿で、高台部径8.0cmを測る、貼り付け高台、内面底部中央に花文の鉄絵がみられる、江戸時代前期のものか。E34は内・外面鉄釉の受口鍋で、口縁部径22.0cmのもの、E35は外面鉄釉の双耳壺、口縁部径10.2cmで、丸くおわる口縁部の端部に打ち欠きがあり、灰落としに使われたものと思われる。E36・E37は鉄釉の擂鉢で、E36が口縁部径43.0cm、E37が口縁部径39.2cmを測

001SD (E1~E59)

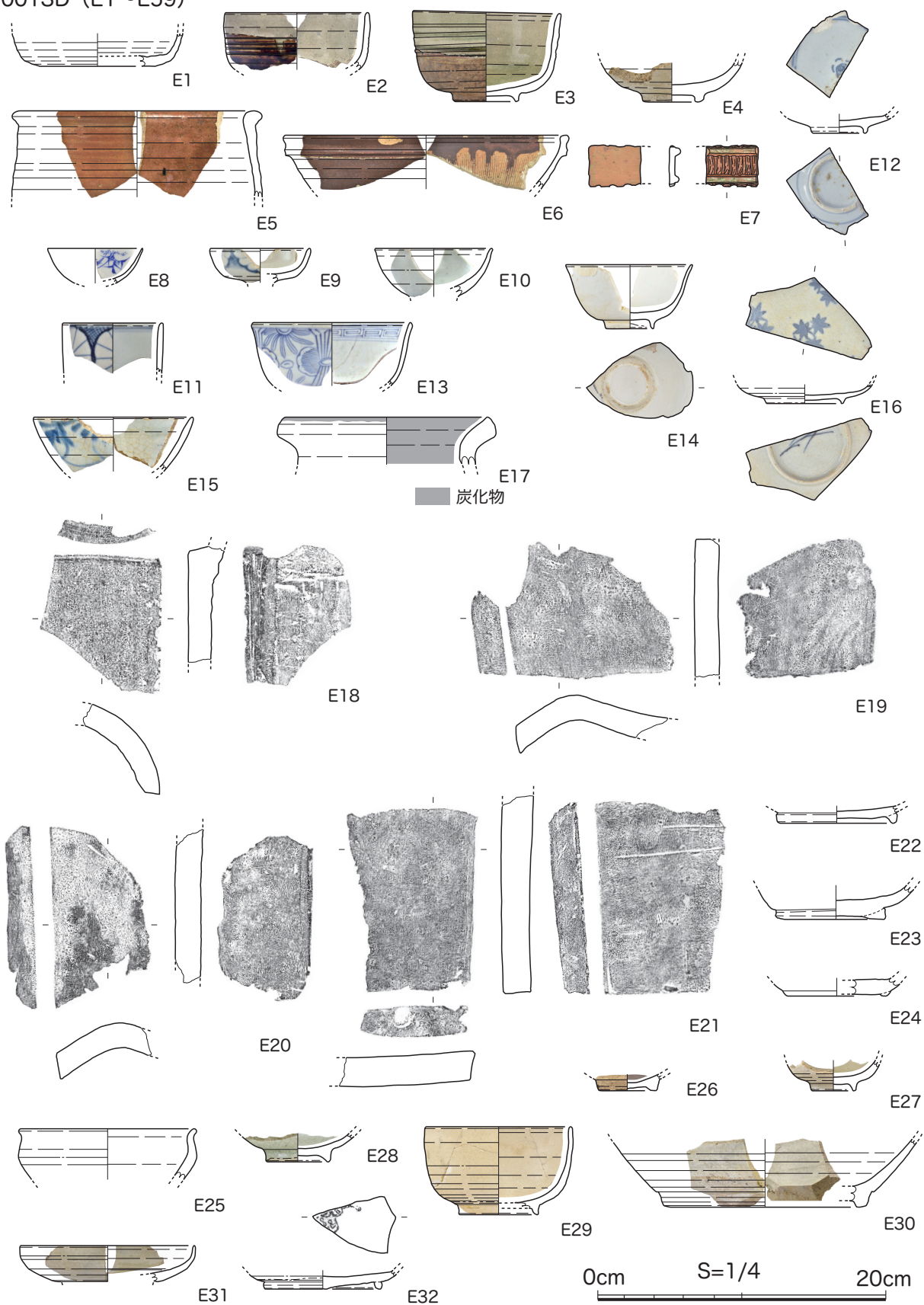


図9 出土土器・陶磁器 1 (1:4)

る、E36の内面体部下半に擦り目がみられる。E33は江戸時代後期～近代の急須で、口縁部径5.0cmの小型のものである、ロクロナデ後湯口を穿孔し、注ぎ口を貼り付けて整形している。E38～E43・E45は瀬戸・美濃窯産磁器で江戸時代後期～近代のもの、E44は肥前産磁器で江戸時代である。E38は口縁部径6.4cmの小丸碗、E39は徳利・瓶で外面貼り付け高台の際に染付直線文1条がめぐる、高台部径4.0cmを測る。E40～E42は染付端反碗で、E40が口縁部径7.0cm、E41が口縁部径8.0cm、E42が底部径3.0cmを測る、E40の外面に染付草花文、E41の内面に染付文、外面に染付草花文に山水文、E42の外面に染付折枝文と花卉文がみられる。E43は底部から口縁部にかけて広がって立ち上がる削り出し高台をもつ広東碗で、高台部径4.7cmのもの、外面体部下半から高台にかけて染付直線文が3条めぐる。E45は四脚の角向付で、外面に呉須絵があり、型押しの新しいものの可能性がある。E44は丸皿で、内面体部に染付草花文と直線文2条、外面体部に染付唐草文と直線文4条、底部に染付直線文がめぐる。口縁部径13.6cm、高台部径8.0cm、器高3.7cmを測る。E46～E57は土師器で、江戸時代後期～近代のものである。E46～E48はロクロ成形の皿で、口縁部内・外面に炭化物・煤が付着しており、灯明皿として使用されたものと思われる。E46は口縁部径10.7cm、器高2.13cm、E47は口縁部径11.0cm、器高2.5cm、E48は口縁部径12.0cmを測る、E46は外面底部に糸切り痕が残るが、E47・E48は外面底部を回転ヘラ削りで整えている。E49～E54は小皿で、E49・E50がロクロ成形のもの、E51～E54がナデ成形のものである。E49・E50・E54は口縁部径が8.2cm～9.0cm、器高1.65cm～1.95cmのやや大型のもの、E51～E53が口縁部径6.0cm～7.4cm、器高1.20cm～2.25cmのやや小型のものに分かれる。E55は製塩土器の体部下半部で、胎土がマーブル状にみえる。底部の粘土は抜けて残っていないが、内面には絞り痕がみられ、ナデ調整されている、底部径5.6cmを測る。E56・E57は鍋で、E56は口縁部径30.0cmの受口口縁鍋で、内・外面がヨコナデ調整のもの、内・外面に煤が付着している。

E57は口縁部径23.0cmの内耳鍋と思われる。E58・E59は棧瓦で、江戸時代後期～近代のものである。全体にナデ調整されており、E59の凹面に離れ砂痕が残る。

○002SD (E60～E65)：E60は山茶碗の底部で、高台部径8.2cmを測る、高台は貼り付け高台で、平安時代末のものである。E61は貼り付け高台の小皿で、高台部径6.0cmを測る、平安時代末のものである。E62～E65は江戸時代後期～近代の瀬戸・美濃窯産陶器で、E62は内・外面灰釉の平碗の底部で、削り出し高台がつく、高台部径4.0cm、外面に鉄絵文がある。E63は内面灰釉、外面白色釉の丸碗の底部で、貼り付け高台がつく、高台部径4.2cmを測る。E64は内面灰釉に緑色釉文、外面灰釉の向付か鉢の底部片で、江戸時代のものである。E65は緑色釉の植木鉢で、口縁部径19.6cmを測る、外面体部に垂下刻線文をめぐらす。

○006SK (E66)：平安時代末の山茶碗の底部で、高台部径7.0cmの貼り付け高台がつく。

○007SK (E67～E69)：E67～E69は平安時代末～鎌倉時代の焼き締め陶器で、E67・E68は山茶碗で、E67は体部片、E68は貼り付け高台の底部片で、高台部径6.5cm、内面底部は磨滅しており、自然釉が付着する。E69は甕の体部下半部で、ロクロナデ・ナデ調整があり、体部下半に回転ヘラ削りで調整されている、高台の際で径12.0cmを測る。

○018SK (E70)：平安時代末～鎌倉時代の山茶碗で、口縁部径15.5cmを測る。

○019SD (E71～E73)：E71は土師器の小皿で、ナデ調整後口縁部をヨコナデで仕上げる、口縁部径6.5cm、底部径2.5cm、器高1.9cmを測る、平安時代末～鎌倉時代のものか。E72は平安時代末の山茶碗の底部で、貼り付け高台がつく、高台部径6.2cmを測る。E73は内・外面灰釉の小碗で、削り出し高台がつくものである、高台の外側で径3.0cm、江戸時代後期～近代のものと思われる。

○検出1 (E74～E77)：E74は奈良時代の須恵器壺の口縁部で、ロクロナデにより調整されている、口縁部径は8.8cm、内面と外面肩部に自然釉付着、内・外面の口縁部に黄土と思われる黒色付着物がみられる。E75は灰釉陶器の碗

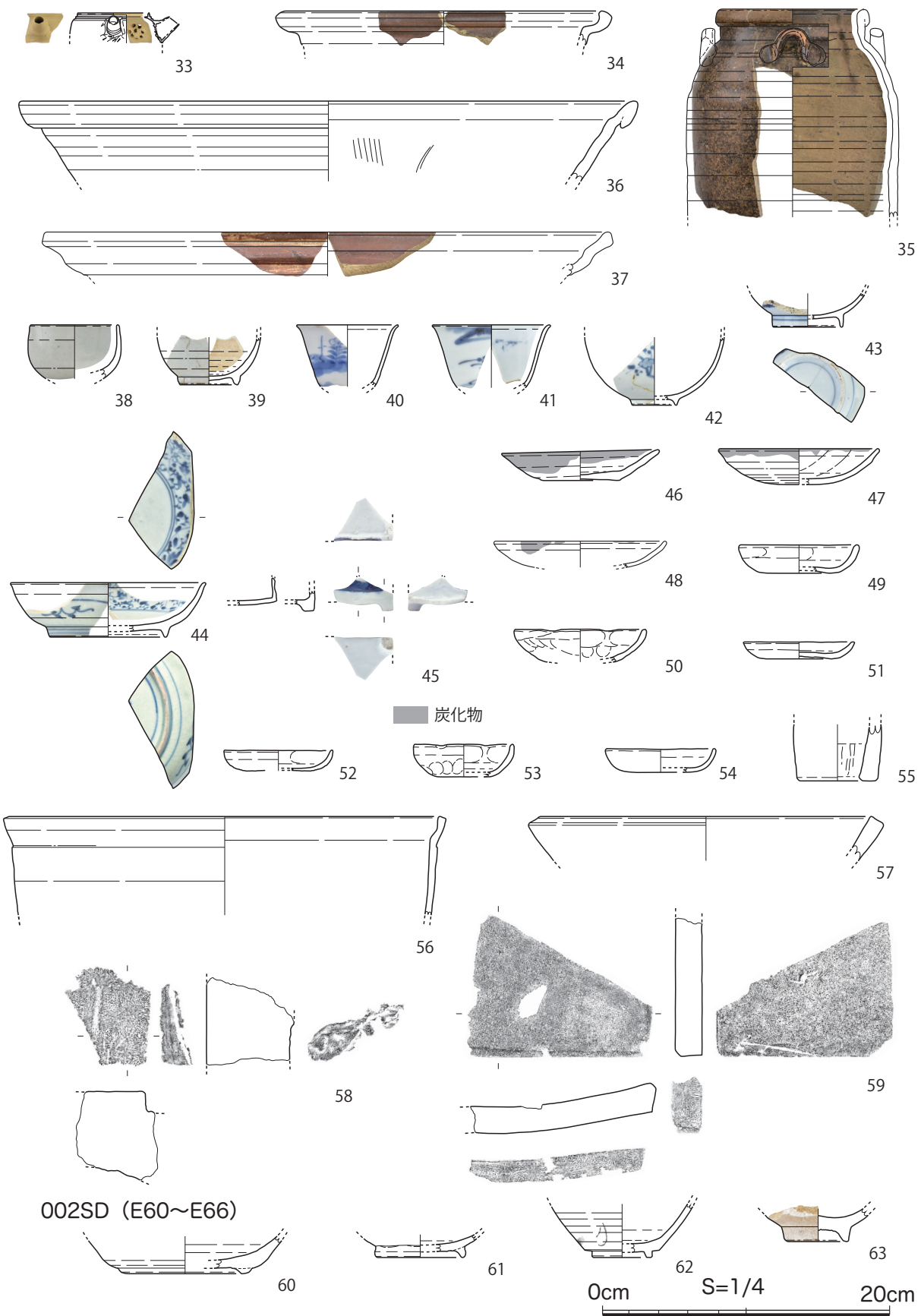


図 10 出土土器・陶磁器 2 (1 : 4)

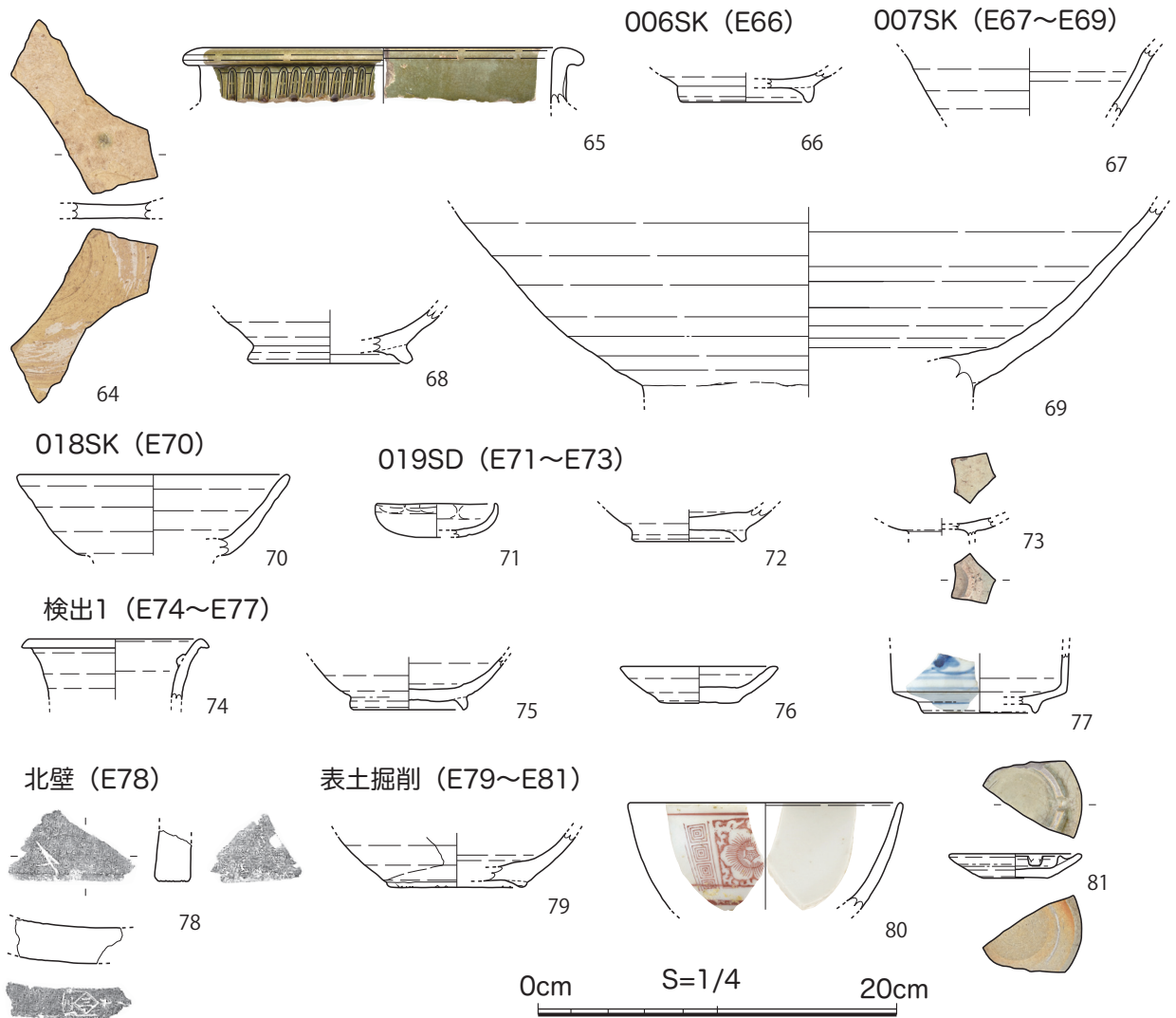


図 11 出土土器・陶磁器 3 (1 : 4)

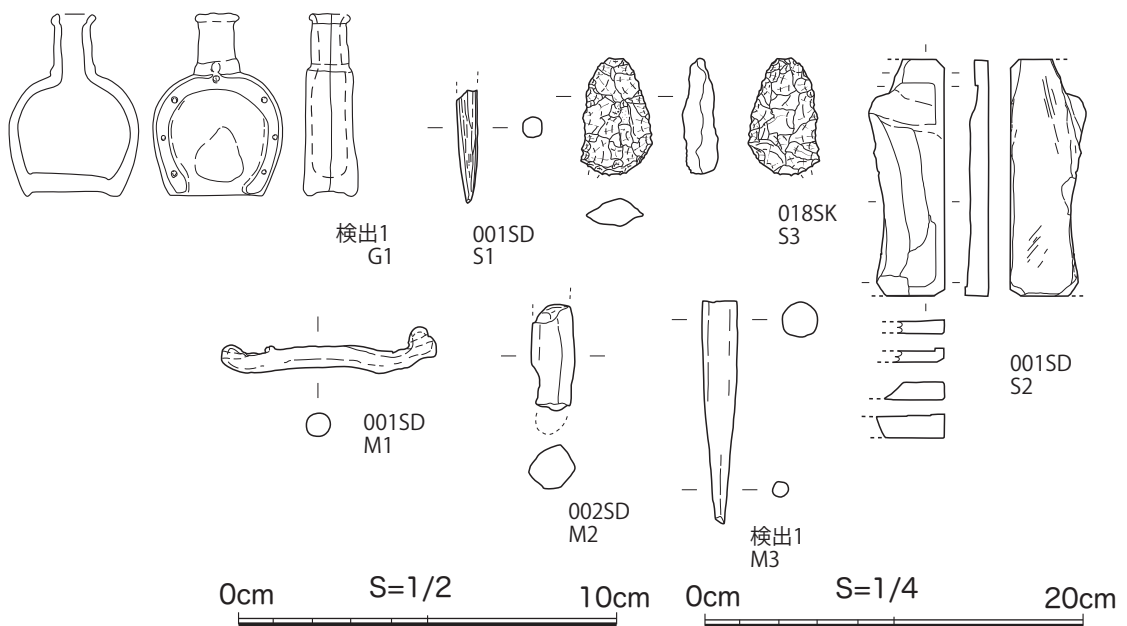


図 12 出土ガラス製品・金属製品・石製品 (ガラス製品と金属製品は 1 : 2、石製品は 1 : 4)

の底部で、高台部径 6.1cm、内面は磨滅している。E76 は焼き締め陶器の小皿で、ロクロナデ後外面底部を糸切りして少し段が残る、口縁部径 8.8cm、底部径 4.3cm、器高 2.03cm を測る。E77 は江戸時代後期～近代の瀬戸・美濃産磁器の筒形碗で、高台部径は 6.2cm の削り出し高台、外面体部に染付草花文と直線文 3 条、高台に染付直線文がめぐり。

○22A 区北壁 (E78)：江戸時代後期～近代の棧瓦で、ナデ調整の下端面に「三州廿」の刻印がみられる。

○表土掘削 (E79～E81)：E79 は平安時代末～鎌倉時代の山茶碗の底部で貼り付け高台がつく、高台部径 6.4cm で高台下端に靱殻圧痕が残る。E80 は近代の磁器の丸碗で、口縁部径 15.0cm、外面に赤色花卉文と雷文の型付け文と直線文 3 条がみられる。E81 は江戸時代後期～近代の瀬戸・美濃産陶器の灯臺で、内面から外面口縁部に灰釉がみられる、ロクロナデ後内面には切り込みのある突帯がめぐり、外面は体部下半～底部を回転ヘラ削りで整形する。

針か簪などの先端部で、鉄刃による削り痕と研磨痕がみられる。S2 は頁岩製の硯で、長さ 12.5cm、幅 4.0cm 以上、厚み 1.3cm をはかる、使用により中央部が大きくくぼんでいる、全体に研磨痕が残る。S3 は 22B 区 018SK 出土のチャート製の両極石器で、打製石鏃の平面形に近く、やや厚みがあり、端部全体に押圧剥離による打面調整がみられる。弥生時代のもと思われる、長さ 3.05cm、幅 1.8cm、厚み 0.9cm を測る。

第2節 ガラス製品 (G1)

G1 は 22C 区の遺構検出時の出土で、近代のガラス製小瓶である。器高 4.95cm で丸い体部は径 2.5cm、厚み 1.3cm で、体部から頸部は屈曲してすばまり、口縁部は垂直にほぼ立ち上がる、口縁部径 0.9cm を測る。

第3節 金属製品 (M1～M3)

M1 は 22A 区 001SD 出土の鉛製品の家具の把手と思われるもの、長さ 5.8cm の断面円形の棒状で太さは 0.6cm～0.7cm、両端部の径が 0.7cm～0.8cm に膨らんでいて、0.2cm 前後の円孔が穿ってある。M2 は 22B 区 002SD 出土の鉄製釘の先端部で、断面方形。M3 は 22A 区の遺構検出時の出土で、銅製品のキセル吸口である、長さ 6.9cm で径 0.9cm～1.0cm の断面円形、吸い口側の径は 0.25cm である。

第4節 石製品 (S1～S3)

S1 は 22A 区 001SD 出土の溶結凝灰岩製の

表3 出土遺物一覧表1

登録 番号	調査区	グリッド	遺構名	取上番 号・層・ 旧遺構	日付	種別	器種	時期	釉薬・色調・石材	残存率	法量(cm)は復元値・残存値			調整		備考
										全体残存 率	口径 (長径)	底径 (幅・短 径)	器高 (厚み)	内面	外面	
E1	22A		001SD	4層	221206	須恵器	杯身	奈良時代、8 世紀前半	10Y6/1灰色	1/10		8.00	(2.30)	ロクロナデ	ロクロナデ後底部回転 へう削り	密、砂礫少ない
E2	22A		001SD	3層	221206	瀬戸・美濃産 陶器	腰猪茶碗	江戸時代後 期	内面灰釉、外面鉄 釉後口縁部灰釉	2/10	9.80		(3.95)	ロクロナデ	ロクロナデ後体部下 回転へう削り、体部に 沈線直線文4条	密、砂礫含まれ る
E3	22A	370320	001SD	上層 dot011	221207	瀬戸・美濃産 陶器	腰猪茶碗	江戸時代後 期	内面灰釉、外面鉄 釉後口縁部灰釉	4/10	10.10	4.00	6.30	ロクロナデ	ロクロナデ後体部下 回転へう削り、削り出 し高台、体部に沈線4 条	密
E4	22A		001SD	3層	221206	瀬戸・美濃産 陶器	丸碗	江戸時代後 期～近代	内・外面灰釉	2/10		3.70	(2.75)	ロクロナデ	ロクロナデ後体部下 回転へう削り、削り出 し高台か	密、砂礫を含 む、高台に砂目 痕
E5	22A	375320	001SD	検出 1dot010	221207	瀬戸・美濃産 陶器	甕	江戸時代後 期～近代	内・外面鉄釉	1/10	16.20		(6.00)	ロクロナデ	ロクロナデ後回転へう 削り	密、砂礫を含む
E6	22A		001SD	1層～5層	221207	瀬戸・美濃産 陶器	播鉢	江戸時代後 期～近代	内面口縁部・外面 鉄釉	1/10	19.60		(3.75)	ロクロナデ後擦り 目	ロクロナデ後回転へう 削り	密
E7	22A		001SD	1層～5層	221206	瀬戸・美濃産 陶器	調理具鉢か	江戸時代後 期～近代	緑色釉	1/10			(2.85)	ナデ	型押し、ナデか	密
E8	22A		001SD	1層～5層	221206	瀬戸・美濃産 磁器	小丸碗	江戸時代後 期～近代	透明釉	1/10	6.60		(2.40)	ロクロナデ、染付 草文	ロクロナデ	密
E9	22C	375320	001SD	検出1	221208	瀬戸・美濃産 磁器	小丸碗	江戸時代後 期～近代	透明釉	2/10	6.80		(2.40)	ロクロナデ	ロクロナデ	密
E10	22A		001SD	1層～5層	221207	瀬戸・美濃産 磁器	小丸碗	江戸時代後 期～近代	透明釉	2/10	8.00		(3.40)	ロクロナデ	ロクロナデ後体部下 回転へう削りか	密
E11	22A		001SD	3層	221206	瀬戸・美濃産 磁器	染付箱型湯 呑	江戸時代後 期～近代	透明釉	1/10	6.80		(3.50)	ロクロナデ、口縁 部に染付直線文1条	ロクロナデ、染付菊花 ちらし文に細かい格子 文を充填	密
E12	22A		001SD	1層～5層	221206	瀬戸・美濃産 磁器	染付丸碗	江戸時代後 期～近代	透明釉	2/10		3.60	(1.05)	ロクロナデ、底部 中央に染付花文、 周囲に染付直線文2 条	ロクロナデ後削り出し 高台、外面底部際に染 付直線文2条	密、外面底部に 粘土粒付着
E13	22A		001SD	5層	221207	瀬戸・美濃産 磁器	染付丸碗	江戸時代後 期～近代	透明釉	2/10	10.80		(4.40)	ロクロナデ、口縁 部に染付雷門	ロクロナデ、染付花草 文	密
E14	22A		001SD	表土掘 削、上層	221205	瀬戸・美濃産 磁器	染付端反小 碗	江戸時代後 期～近代	透明釉	3/10	8.70	3.25	4.45	ロクロナデ	ロクロナデ後削り出し 高台、底部際に染付文 か	密
E15	22A		001SD	1層～5層	221206	瀬戸・美濃産 磁器	染付丸碗	江戸時代後 期～近代	透明釉	1/10	11.00		(3.73)	ロクロナデ	ロクロナデ、染付花草 文	密、内・外面に 貫入
E16	22A	370320	001SD	上層 dot012	221207	瀬戸・美濃産 磁器	染付皿	江戸時代後 期～近代	透明釉	2/10		5.20	(1.35)	ロクロナデ、底部 にカエド文絵	ロクロナデ後削り出し 高台、底部と体部に染 付草文か	密
E17	22A		001SD	4層	221206	土師器	蚊いぶし	江戸時代後 期～近代	2.5YR5/8明赤褐色	1/10	14.00		(3.30)	ロクロナデ	ロクロナデ	密、小粒砂礫を 含む、内面煤・ 炭化物付着
E18	22A		001SD	4層	221206	瓦	丸瓦	江戸時代後 期～近代	7.5Y2/1黒色	1/10	(9.80)	(7.30)	1.60	布目痕、模骨板 痕、削りとナデ	板ナデ、ヨコナデ	密、小粒砂礫を 含む、基部、高 さ6.3cm
E19	22A		001SD	3層	221206	瓦	棧瓦	江戸時代後 期～近代	7.5Y2/1黒色	1/10	(9.90)	(10.50)	1.65	ナデ	板ナデ後ナデか	密、小粒砂礫を 含む、基部、凹 面は全体に土砂 付着、凸面は基 部側に土砂付 着、基部側の切 り込みなし、高 さ4.0cm
E20	22A		001SD	1層～5層	221206	瓦	棧瓦	江戸時代後 期～近代	7.5Y2/1黒色	1/10	(12.90)	(5.90)	1.70	ナデ	ナデ	密、小粒砂礫を 含む、凸面に土 砂付着
E21	22A		001SD	4層	221206	瓦	道具瓦	江戸時代後 期～近代	7.5Y2/1黒色	1/10	(13.80)	(9.60)	2.10	ナデ	工具ナデ後ナデ	密、小粒砂礫を 含む、凹・凸面 の側面側の縁を ナデ

表4 出土遺物一覧表2

登録 番号	調査区	グリッド	遺構名	取上番 号・層・ 旧遺構	日付	種別	器種	時期	釉薬・色調・石材	残存率	法量(m)は復元値・残存値			調整		備考
										全体残存 率	口径 (長径)	底径 (幅・短 径)	器高 (厚み)	内面	外面	
E22	22A	370320	001SD	下層	221208	灰釉陶器	皿	平安時代	2.5Y 7/2灰黄色	2/10		8.00	(1.25)	ロクロナデ	底部糸切り後貼り付け 高台	密、内面底部磨 減
E23	22A	370320	001SD	下層	221208	焼き締め陶器	山茶碗	平安時代末	2.5Y 7/4浅黄色	3/10		6.70	(2.10)	ロクロナデ、一部 指頭痕	ロクロナデ後底部糸切 り後貼り付け高台	密、小粒砂礫を 含む
E24	22A	370320	001SD	下層	221208	焼き締め陶器	山茶碗	平安時代末 ～鎌倉時代	2.5Y 7/3浅黄色	2/10		7.00	(0.85)	ロクロナデ	ロクロナデ後底部糸切 り後貼り付け高台	密、小粒砂礫を 含む
E25	22A	370320	001SD	下層	221208	瀬戸・美濃産 陶器	天目茶碗	戦国時代	内・外面鉄釉	1/10	12.00		(3.55)	ロクロナデ	ロクロナデ後回転ヘラ 削り	密
E26	22A	370320	001SD	下層	221208	瀬戸・美濃産 陶器	天目茶碗	江戸時代	内面鉄釉	1/10		3.90	(0.85)	ロクロナデ	削り出し高台	密
E27	22A	370315・ 370320	001SD	下層	221213	瀬戸・美濃産 陶器	小丸碗	江戸時代後 期～近代	内・外面灰釉	2/10		2.90	(1.85)	ロクロナデ	ロクロナデ後削り出し 高台、回転ヘラ削り	密
E28	22A	370320	001SD	下層	221208	瀬戸・美濃産 陶器	丸碗	江戸時代後 期～近代	内・外面灰釉	2/10		4.30	(1.79)	ロクロナデ	ロクロナデ後削り出し 高台、回転ヘラ削り	密
E29	22A	370320	001SD	下層	221208	瀬戸・美濃産 陶器	丸碗	江戸時代後 期～近代	内・外面灰釉	4/10	10.00	5.40	6.12	ロクロナデ	ロクロナデ後体部下半 回転ヘラ削り、削り出 し高台、体部に三点 文?	密、小粒砂礫を 含む
E30	22A	370320	001SD	下層	221208	瀬戸・美濃産 陶器	端反鉢か折 縁鉢	江戸時代後 期～近代	内・外面灰釉	1/10		13.00	(4.50)	ロクロナデ後ハケ 状擦り目	ロクロナデ後削り出し 高台、回転ヘラ削り	密
E31	22A	370320	001SD	下層	221208	瀬戸・美濃産 陶器	丸皿	江戸時代後 期～近代	内・外面灰釉	1/10	12.00		(2.50)	ロクロナデ、底部 に凹線文1条	ロクロナデ後回転ヘラ 削り	密
E32	22A	370320	001SD	下層	221208	瀬戸・美濃産 陶器	皿	江戸時代	内・外面長石釉	1/10		8.00	(1.05)	ロクロナデ、底部 中央に花文の鉄絵	ロクロナデ後回転ヘラ 削り後貼り付け高台	密
E33	22A	370315・ 370320	001SD	下層	221213	近世陶器	急須	江戸時代後 期～近代	2.5Y 7/4浅黄色	1/10	5.00		(2.11)	ロクロナデ	ロクロナデ後湯口穿孔 後注ぎ口を貼り付け・ 整形、口縁部に沈線2 条	密
E34	22A	370320	001SD	下層	221208	瀬戸・美濃産 陶器	受口鍋	江戸時代後 期～近代	内・外面鉄釉	1/10	22.00		(2.40)	ロクロナデ	ロクロナデ	密
E35	22A	370320	001SD	下層	221208	瀬戸・美濃産 陶器	双耳壺か四 耳壺	江戸時代後 期～近代	外面鉄釉	2/10	10.20		14.45	ロクロナデ	ロクロナデ後体部下半 回転ヘラ削り	密、口縁端部に 打ち欠きあり、 灰落とし
E36	22A	370315・ 370320	001SD	下層	221213	瀬戸・美濃産 陶器	播鉢	戦国時代、 16世紀後半	内・外面鉄釉	1/10	43.00		(5.60)	ロクロナデ後体部 下半に擦り目	ロクロナデ後回転ヘラ 削り	密
E37	22A	370320	001SD	下層	221208	瀬戸・美濃産 陶器	播鉢	江戸時代後 期～近代	内・外面鉄釉	1/10	39.20		(3.00)	ロクロナデ	ロクロナデ	密
E38	22A	370320	001SD	下層	221208	瀬戸・美濃産 磁器	小丸碗	江戸時代後 期～近代	内・外面透明釉	2/10	6.00		(3.75)	ロクロナデ	ロクロナデ後体部下半 回転ヘラ削り	密
E39	22A	370320	001SD	下層	221208	瀬戸・美濃産 磁器	徳利・瓶	江戸時代後 期～近代	内・外面透明釉	2/10		4.00	(3.35)	ロクロナデ	ロクロナデ後削り出し 高台、回転ヘラ削り、 体部と高台際に染付直 線文各1条	密
E40	22A	370320	001SD	下層	221208	瀬戸・美濃産 磁器	端反碗	江戸時代後 期～近代	内・外面透明釉	1/10	7.00		(4.35)	ロクロナデ	ロクロナデ、染付草花 文	密、新しいもの か
E41	22A	370320	001SD	下層	221208	瀬戸・美濃産 磁器	端反碗	江戸時代後 期～近代	内・外面透明釉	2/10	8.00		(4.40)	ロクロナデ、染付 文あり	ロクロナデ、染付草花 文に山水文か	密
E42	22A	370320	001SD	下層	221208	瀬戸・美濃産 磁器	端反碗	江戸時代後 期～近代	内・外面透明釉	1/10		3.00	(4.80)	ロクロナデ	ロクロナデ後削り出し 高台、染付折枝文・花 弁文	密
E43	22A	370320	001SD	下層	221208	瀬戸・美濃産 磁器	広東碗	江戸時代後 期～近代	内・外面透明釉	2/10		4.70	(2.28)	ロクロナデ	ロクロナデ後削り出し 高台、体部下半から高 台にかけて染付直線文 3条	密
E44	22A	370320	001SD	下層	221208	肥前産磁器	丸皿	江戸時代	内・外面透明釉	2/10	13.60	8.00	(3.80)	ロクロナデ、体部 染付草花文、その 下に直線文2条	ロクロナデ後削り出し 高台、体部に染付唐草 文と直線文4条、底部 に染付直線文	密

表5 出土遺物一覧表3

登録 番号	調査区	グリッド	遺構名	取上番 号・層・ 旧遺構	日付	種別	器種	時期	釉薬・色調・石材	残存率	法量(cm)は復元値・残存値			調整		備考
										全体残存 率	口径 (長径)	底径 (幅・短 径)	器高 (厚み)	内面	外面	
E45	22A	370320	001SD	下層	221208	瀬戸・美濃産 磁器	角向付	江戸時代後 期～近代	内・外面透明釉	1/10	4.15	3.00	(2.30)	ナデ	ナデ、四脚、呉須絵	密、型押しの新 しいものか
E46	22A	370320	001SD	下層	221208	土師器	皿(灯明 皿)	江戸時代後 期～近代	5YR6/8橙色	7/10	10.80	5.10	2.13	ロクロナデ	ロクロナデ後底部未切 り	密、口縁部内・ 外面に炭化物・ 煤付着、灯明皿
E47	22A	370320	001SD	下層	221208	土師器	皿(灯明 皿)	江戸時代後 期～近代	2.5YR4/6赤褐色	3/10	11.00	2.8	2.50	ロクロナデ	ロクロナデ後底部回転 ヘラ削り	密、口縁部内・ 外面に炭化物・ 煤付着、灯明皿
E48	22A	370320	001SD	下層	221208	土師器	皿(灯明 皿)	江戸時代後 期～近代	7.5YR6/6橙色	1/10	12.00		(1.75)	ヨコナデ	ヨコナデ	密、口縁部内・ 外面に炭化物・ 煤付着、灯明皿
E49	22A	370320	001SD	下層	221208	土師器	小皿	江戸時代後 期～近代	7.5YR7/6橙色	2/10	8.20	4.20	1.95	ナデ、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	密
E50	22A	370320	001SD	下層	221208	土師器	小皿	江戸時代後 期～近代	7.5YR7/4にふい橙 色	2/10	9.00		(2.25)	ナデ、口縁部ヨコ ナデ	ナデ、口縁部ヨコナデ	密
E51	22A	370320	001SD	下層	221208	土師器	小皿	江戸時代後 期～近代	7.5YR7/6橙色	2/10	7.70	4.60	1.20	ナデ、口縁部ヨコ ナデ	ナデ、口縁部ヨコナデ	密
E52	22A	370320	001SD	下層	221208	土師器	小皿	江戸時代後 期～近代	2.5YR8/2灰白色	3/10	7.40	3.20	1.45	ナデ、口縁部ヨコ ナデ	ナデ、口縁部ヨコナデ	密
E53	22A	370320	001SD	下層	221208	土師器	小皿	江戸時代後 期～近代	7.5YR7/4にふい橙 色	2/10	6.80	3.80	2.25	ナデ、口縁部ヨコ ナデ	ナデ、口縁部ヨコナデ	密
E54	22A	370320	001SD	下層	221208	土師器	小皿	江戸時代後 期～近代	10YR7/4にふい黄 橙色	1/10	7.50	4.80	1.65	ナデ、口縁部ヨコ ナデ	ナデ、口縁部ヨコナデ	密
E55	22A	370320	001SD	下層	221208	土師器	製塩土器	江戸時代後 期～近代	5YR6/6橙色	1/10		5.20	(3.94)	絞り痕後ナデか	ナデ	密、胎土がマー ブル状
E56	22A	370320	001SD	下層	221208	土師器	受口口縁鍋	江戸時代後 期～近代	10YR6/4にふい黄 橙色	1/10	30.00		(6.85)	ヨコナデ	ヨコナデ	密、小粒砂礫を 含む、内・外面 煤付着
E57	22A	370320	001SD	下層	221208	土師器	鍋	江戸時代後 期～近代	10YR7/4にふい黄 橙色	1/10	23.00		(3.10)	ヨコナデ	ヨコナデ	密
E58	22A	370320	001SD	下層	221208	瓦	道具瓦	江戸時代後 期～近代	5Y3/1オリーブ黒 色	1/10	(6.80)	(5.80)	6.20	ナデ	ナデ	密、小粒砂礫を 含む、文様が剥 離痕あり
E59	22A	370320	001SD	下層	221208	瓦	棧瓦	江戸時代後 期～近代	2.5Y2/1黒色	1/10	(9.90)	(12.90)	1.88	ナデ	ナデ	密、小粒砂礫を 含む、凹面に離 れ砂
E60	22B	380320	002SD	dot017	221209	焼き締め陶器	山茶碗	平安時代末	2.5Y7/1灰白色	1/10		7.80	(2.30)	ロクロナデ	ロクロナデ後底部未切 り後貼り付け高台	密、小粒砂礫を 含む
E61	22B	380320	002SD		221213	焼き締め陶器	小碗	平安時代末	2.5Y7/1灰白色	1/10		6.00	(1.34)	ロクロナデ	ロクロナデ後底部未切 り後貼り付け高台	密、小粒砂礫を 含む、内面に自 然釉付着
E62	22B	380320	002SD	dot020	221209	瀬戸・美濃産 陶器	平碗	江戸時代後 期～近代	内・外面灰釉	2/10		4.00	(3.58)	ロクロナデ	ロクロナデ後削り出し 高台、体部下半回転ヘ ラ削り、外面に鉄絵文	密
E63	22B	380320	002SD	dot019	221209	瀬戸・美濃産 陶器	丸碗	江戸時代後 期～近代	内面灰釉、外面白 色釉	2/10		4.20	(1.86)	ロクロナデ	ロクロナデ後削り出し 高台か、回転ヘラ削り	密
E64	22B	380320	002SD		221213	瀬戸・美濃産 陶器	向付か鉢	江戸時代	内面灰釉に緑釉 文、外面灰釉か	1/10			(0.95)	ロクロナデ	回転ヘラ削り	密、底部径約 14.0cm
E65	22B	380320	002SD	dot016	221209	瀬戸・美濃産 陶器	植木鉢	江戸時代後 期～近代	緑釉	1/10	19.60		3.09	ロクロナデ	ロクロナデ後体部に垂 下刻線文	密
E66	22C	375320	006SK		221209	焼き締め陶器	山茶碗	平安時代末	2.5Y6/1黄灰色	1/10		7.00	(1.50)	ロクロナデ	ロクロナデ後底部未切 り後貼り付け高台	密、小粒砂礫を 含む
E67	22B	375320	007SK	dot022	221213	焼き締め陶器	山茶碗	平安時代末 ～鎌倉時代	2.5Y7/2灰黄色	1/10			(3.50)	ロクロナデ	ロクロナデ	密、小粒砂礫を 含む、体部片
E68	22B	375320	007SK	dot022	221213	焼き締め陶器	山茶碗	平安時代末	2.5Y7/2灰黄色	1/10		8.60	(2.70)	ロクロナデ	ロクロナデ後底部未切 り後貼り付け高台	密、小粒砂礫を 含む、内面底部 磨滅、内面に自 然釉付着

表6 出土遺物一覧表4

登録 番号	調査区	グリッド	遺構名	取上番 号・層・ 旧遺構	日付	種別	器種	時期	釉薬・色調・石材	残存率	法量(cm)は復元値・残存値			調整		備考
										全体残存 率	口径 (長径)	底径 (幅・短 径)	器高 (厚み)	内面	外面	
E69	22B	375320	007SK	dot022	221213	焼き締め陶器	甕	平安時代末 ～鎌倉時代	5PB3/1暗青灰色	1/10			(10.40)	ナデ、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ後体部 下半を回転へう削り後 貼り付け高台	密、高台の際で 径18.4cm
E70	22B	380320	018SK	dot014	221209	焼き締め陶器	山茶碗	平安時代末 ～鎌倉時代	2.5Y7/1灰白色	1/10	14.90		(4.50)	ロクロナデ	ロクロナデ	密、小粒砂礫を 含む
E71	22B	375320	019SD	dot015	221209	土師器	小皿	江戸時代後 期～近代	10YR7/6明黄褐色	3/10	6.50	2.50	1.90	ナデ、口縁部ヨコ ナデ	ナデ、口縁部ヨコナデ	密
E72	22B	375320	019SD	dot018	221209	焼き締め陶器	山茶碗	平安時代末	2.5Y7/2灰黄色	1/10		6.00	(1.80)	ロクロナデ	ロクロナデ後底部糸切 り後貼り付け高台	密、小粒砂礫を 含む
E73	22B	375320	019SD		221209	瀬戸・美濃産 陶器	小碗	江戸時代後 期～近代	内・外面灰釉	1/10			(0.50)	ロクロナデ	ロクロナデ後削り出し 高台	密、高台の外側 で径3.7cm
E74	22A	370320	検出1		221207	須恵器	甕	奈良時代	2.5Y2/1黒色	1/10	9.60		(3.40)	ロクロナデ	ロクロナデ	密、内面と外面 肩部に自然釉付 着、内・外面の 口縁部に黄土と 思われる黒色物 付着
E75	22A	370320	検出1		221207	灰釉陶器	碗	平安時代	2.5Y7/2灰黄色	2/10		6.10	(2.60)	ロクロナデ	ロクロナデ後底部糸切 り後回転へう削り後貼 り付け高台	密、内面磨減 り
E76	22A	370320	検出1		221207	焼き締め陶器	小皿	平安時代末 ～鎌倉時代	2.5Y7/2灰黄色	3/10	8.60	4.30	2.03	ロクロナデ	ロクロナデ後底部糸切 り	密、小粒砂礫を 含む、全体的に 摩滅している
E77	22B	375320	検出1	007SK	221209	瀬戸・美濃産 磁器	筒形碗	江戸時代後 期～近代	透明釉	1/10		6.20	(3.32)	ロクロナデ	ロクロナデ後削り出し 高台、体部に染付草花 文と直線文3条、高台 に染付直線文	密
E78	22A		北壁		221207	瓦	棧瓦	江戸時代後 期～近代	10Y2/1黒色	1/10	4.30	7.40	2.00	ナデ	ナデ	密、小粒砂礫を 含む、下端面に 「三州廿」刻印
E79	22A		表土掘削		221206	焼き締め陶器	山茶碗	平安時代末 ～鎌倉時代	2.5Y7/2灰黄色	2/10		7.20	(2.80)	ロクロナデ	ロクロナデ後底部糸切 り後貼り付け高台	密、高台下端に 極微圧痕
E80	22A		表土掘削		221206	磁器	丸碗	近代	透明釉	1/10	15.00		(6.00)	ロクロナデ	ロクロナデ、赤色花卉 文と雷文の型付け文と 直線文3条	密
E81	22A		表土掘削		221206	瀬戸・美濃産 陶器	灯籠	江戸時代後 期～近代	内面から外面口縁 部灰釉	2/10	7.00	3.55	1.35	ロクロナデ後突帯 の切り込み	ロクロナデ後底部糸切 り後底部から体部下半 を回転へう削り	密、外面に重ね 焼き痕あり
G1	22C	375320	検出1	(001SD か)	221208	ガラス製品	小瓶	近代	透明	10/10	0.90	2.50× 1.30	4.85			ガラス内部に小 気泡がみられる
M1	22A		001SD	2層	221206	鉛製品	家具の把手 か	江戸時代後 期～近代	白色	6/10	5.70	0.60	0.60			断面円形で、両 端部の径が 0.7cm～0.8cm に膨らんでい て、0.2cm前後 の円孔が穿っ てある
M2	22B	380320	002SD		221209	鉄製品	釘	江戸時代後 期～近代	茶色	2/10	2.80	1.15	1.15			断面方形、釘先 端部
M3	22A	370320	検出1		221207	銅製品	キセル吸口	江戸時代後 期～近代	青緑色	9/10	6.90	0.90	0.90			断面円形、吸口 側径0.25cm
S1	22A	370320	001SD	下層	221208	石製品	針か簪など	江戸時代後 期～近代	溶結凝灰岩	先端部	3.00	0.50	0.50		鉄刃による削り痕と研 磨痕	
S2	22A	370320	001SD	下層	221208	石製品	硯	江戸時代後 期～近代	頁岩	5/10	12.50	4.00～	1.30	研磨痕、使用によ り中央部が大き くぼむ	研磨痕	
S3	22B	380320	018SK	dot021	221213	石製品	打製石礫未 製品	弥生時代か	チャート	7/10	3.10	1.80	0.90		剥離痕	

第4章 総括

第1節 外堀地点の遺構変遷

本節では、今回の調査成果である22区の遺構変遷と南25m程の地点にある96区の遺構の変遷を合わせて検討する(図13)。まず、22区では中世の遺構として小型の柱穴と思われる土坑18基がある。調査区が狭いので、柱穴の並びや組み合わせからなる建物跡は推定できない

が、96区では明確な中世の遺構は報告されていないのでその広がり是不明である。しかし、96区の北西部に奈良時代の掘立柱建物SB01が確認されており、平安時代の灰釉陶器、清郷型鍋などの土師器なども出土していることから、付近で奈良時代から続く集落が営まれていたことが想定できる。

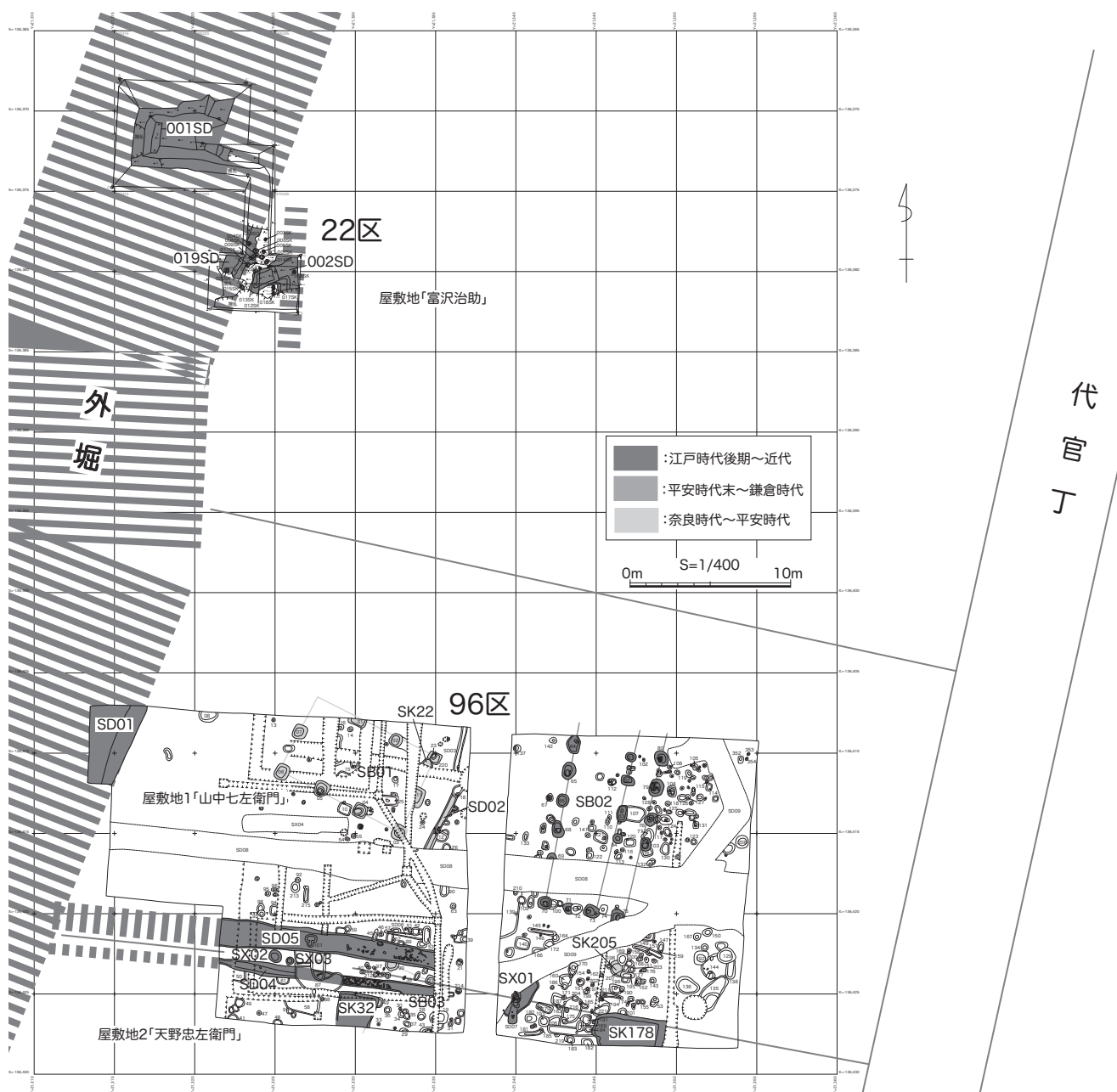


図13 22区・96区遺構変遷図(1:400)

屋敷地名・屋敷地境・道の復元ラインは豊橋市美術博物館所蔵『吉田藩士屋敷図』を参考に作成

22区の江戸時代の遺構として、001SDと002SD・019SDがある。001SDは96区のSD01から北に伸びてくる外堀の東肩部にあたる。また019SDも調査時は001SDとは別の遺構として掘削したが、96区のSD01の東肩上部は緩い傾斜となっており、廃城後の堀の埋め立て時に上端部が少し削られている可能性があり、22区の019SDは外堀の一部である可能性が高い。一方で、002SDは019SDとやや鋭角に接続しているものと思われる。また002SDは東西方向にはしる溝の可能性もあるが、北側と南側に折れて伸びる状況も観察される。豊橋市美術館所蔵『吉田藩土屋敷図』において、外堀の東西両側に土塁の表現があり(図14)、東にある武家屋敷と外堀の間には、絵図では小規模に描かれている土塁が存在した可能性が高い。絵図の表現から、002SDは外堀と武家屋敷の間にある土塁の屋敷側にある区画溝・排水溝の機能を推定できるが、次節で少し検討したい。

第2節 吉田城址における外堀と22区002SDの関係

最後に22区で確認された箇所について、天保から嘉永(1830～1853年)頃作成とされる豊橋市美術館所蔵『吉田藩土屋敷図』を参考に検討する。96区の調査報告である『吉田城遺跡Ⅲ』において、96区SD05より北を屋敷地1として「山中七左衛門」の屋敷地を、SD04の南を屋敷地2として「天野忠左衛門」の屋敷地を推定している。

しかし、前節で述べた22区の002SDについて、96区のSD05の北側上端から22区002SDの南側上端まで南北約36mある。吉田城址の東外堀から「山中七左衛門」の屋敷地の東に面する南北路の「代官丁」通りまで東西約45mを想定すると、「山中七左衛門」の屋敷地は「三百卅一坪五分」の面積であるので、96区SD05を屋敷地境の溝と推定するならば、「山中七左衛門」の屋敷地の北側境の位置は北に約24.3m前後の位置となる。したがって22区002SDは東に伸びる屋敷地境の溝である可能性は低く、先に述べたように溝が南北に折れて流れる状況から、「山中七左衛門」の屋敷地の北

にある「富沢治助」の屋敷地の区画溝などの排水溝である可能性が高く、019SDとの接続する手前で一段掘り下げて土坑状となっている状況は、少し水溜めをしてから土塁の下を通して外堀に接続していた可能性が高い。

さて、先に述べた96区のSD04とSD05は、96区の西側調査区を東西に伸びているが、96区の東側調査区においてはSX01がその東になる可能性があるが、東には伸びていかない。また2つの溝は深さが0.3mより浅く、東側では徐々に浅くなっていて、底のレベルでは標高8.7m～8.9mで東から西に向かって傾斜している。基本層序の報告には、調査区の地表面は標高9.5mにあり、表土と整地層を除いた地山遺構検出面は9.2m程にあって、比較的平坦な状況になっている。この状況は22区も同様であり、吉田城址の比較的高所に位置することから後世の削平を受けやすい状況にあるとの指摘の通りである。

しかし、遺跡全体の地形を検討すると現地表面では、本丸から三の丸の部分は標高10.3m～10.5mと最も高く、東と南に向かって低くなる地形となっている(図2)。22区・96区のある地点も西側東外堀のある地点が標高9.7m、東側東外堀のある地点が標高8.5m前後と西から東に向けて低くなっている。先に述べた96区SD04・SD05は地形には逆らって西側東外堀に向かって流されているものと考えられる。よって、96区SD04・SD05は、同時期の掘立柱建物SB02から西半分の屋敷地裏側となる部分の排水をするための溝と考えられる。

このように考えると中世以前の遺構は調査区の西側にも分布するが、江戸時代後期の遺構は屋敷地の配置に従い、東にある「代官丁」通りのある表手から西側の裏手に遺構が少なくなる傾向が認められ、屋敷内の建物の裏手の西側は園地などが広がっていた可能性が高い。22区002SDも屋敷の裏手の排水溝の機能が想定できる。

参考・引用文献

原田 幹・武部真木・森 勇一 1998『吉田城遺跡Ⅲ』「愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第78集」財団法人愛知県埋蔵文化財センター

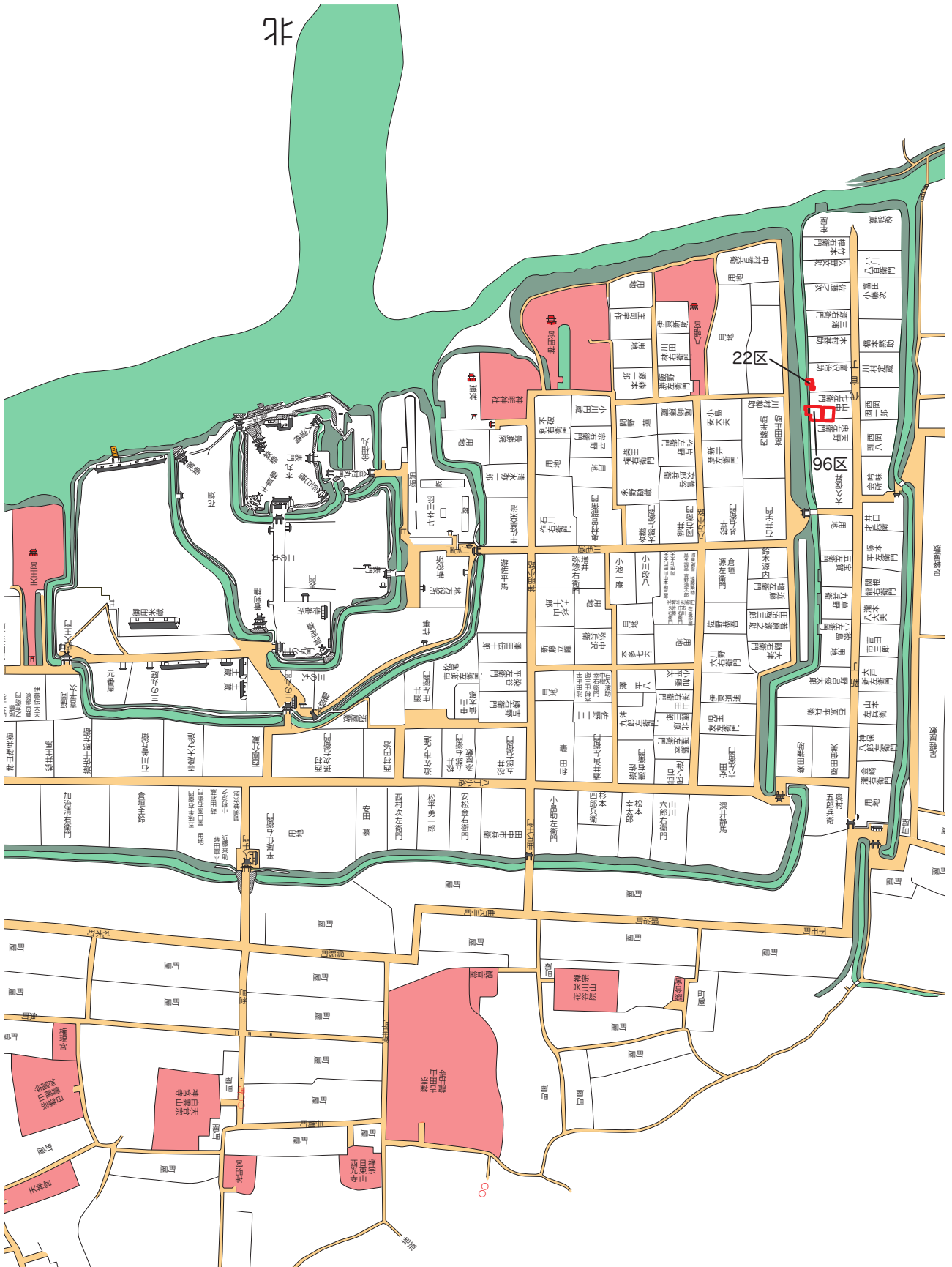


図 14 吉田藩土屋敷図（豊橋市美術博物館所蔵絵図より作成）

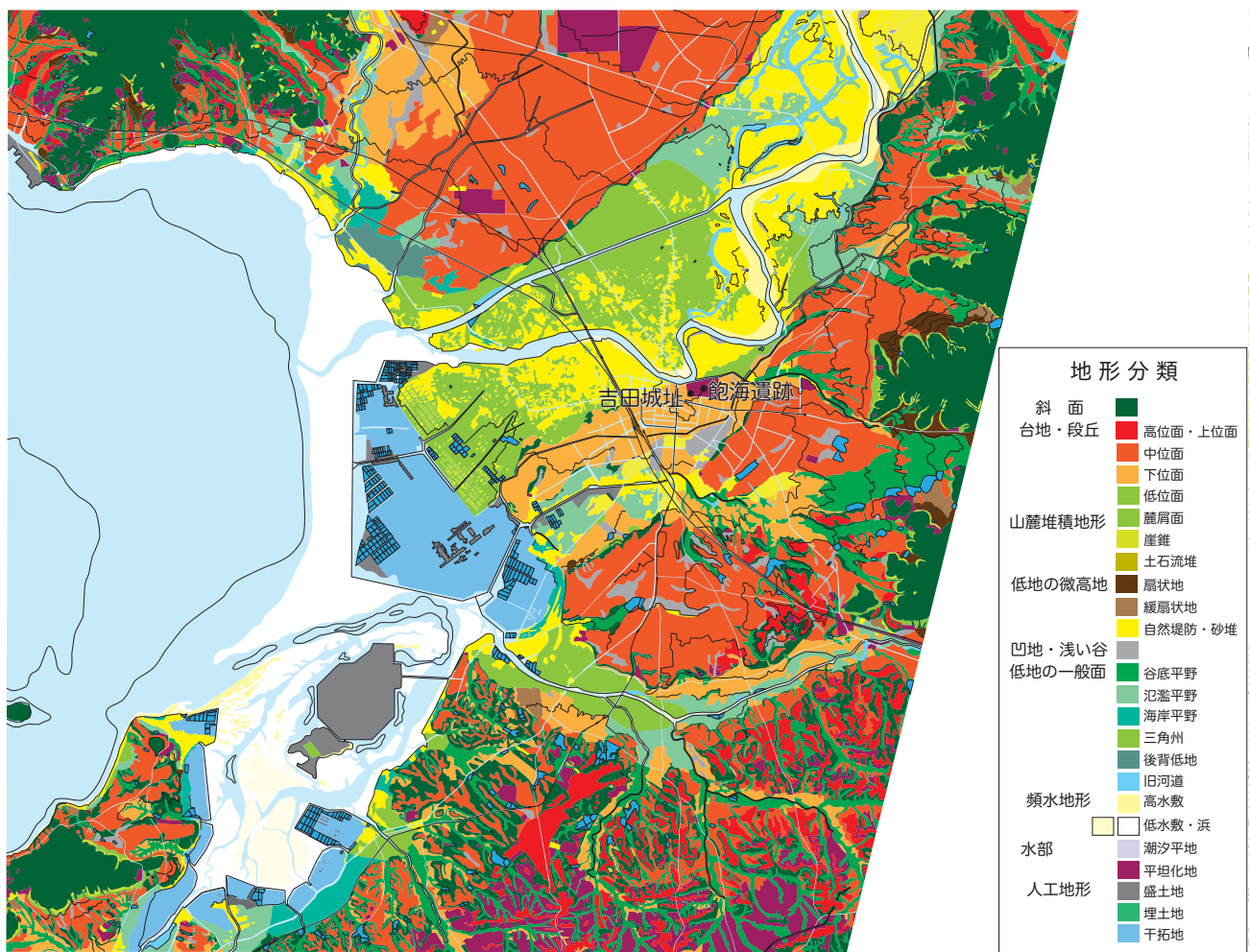


図 15 吉田城址・飽海遺跡の立地 (1:100,000)

国土地理院 昭和 42 年 2 月印刷 1:25,000 豊橋 土地条件図 よりトレース・一部改変して作成



22区全景（東より）



22A区外堀 001SD（南東より）



22A区外堀 001SD 東側立ち上がり（南西より）



22A区外堀 001SD 西壁土層断面（東より）



22A区外堀 001SD 上層出土腰鑄茶碗（E3、西より）



22B 区遺構検出状況（北西より）



22B 区完掘状況（北東より）



22B 区 002SD・007SK～021SK（東より）



22B 区西側北壁、019SD（南より）



22B 区・22C 区完掘状況（南より）



22B 区東側北壁（南より）



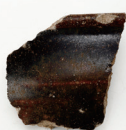
22B 区 002SD 断面・019SD（南西より）



22B 区 007SK 甕 (E69) 出土状況（北東より）



001SD・002SD・019SD 出土遺物





報告書抄録

ふりがな		よしだじょうし あくみいせき						
書 名		吉田城址 飽海遺跡						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第230集						
編著者名		蔭山誠一						
編集機関		公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所 在 地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2025年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
よしだじょうし 吉田城址 あくみいせき 飽海遺跡	あいちけんとよはしし 愛知県豊橋市 いまはしちよう 今橋町6	23201 23201	790393 790394	34度 46分 12秒	137度 23分 59秒	2022.12.5～ 2022.12.22	100㎡	東三河建設事務所 改修工事 (発電機 棟等建設) に伴う発 掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
吉田城址 飽海遺跡	城館 集落	鎌倉時代・ 江戸時代	外堀・柱穴・井戸・ 土坑・溝		山茶碗・小皿・常滑窯 産甕・施釉陶器・磁器 ・打製石鏃		吉田城址の外堀東 に隣接する武家屋 敷地	
文書番号	発掘届出(4埋セ第73号・2022.9.26) 通知(4文芸第1545号・2022.10.4) 終了届・発見届・保管証(4埋セ第111号・2022.12.27) 鑑定結果通知(4豊教美第542-2号・2023.1.16)							
要約	鎌倉時代の柱穴と考えられる遺構は、飽海遺跡に関連する遺構と推定できる。江戸時代の溝は、吉田城址の外堀東肩部と武家屋敷地の排水用水路が推定される。今後、吉田城址の武家屋敷地を考える上で貴重な資料になるものと思われる。							

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第230集

吉田城址 飽海遺跡

2025年3月31日

発行 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

印刷 西濃印刷株式会社